戰鬪雜誌

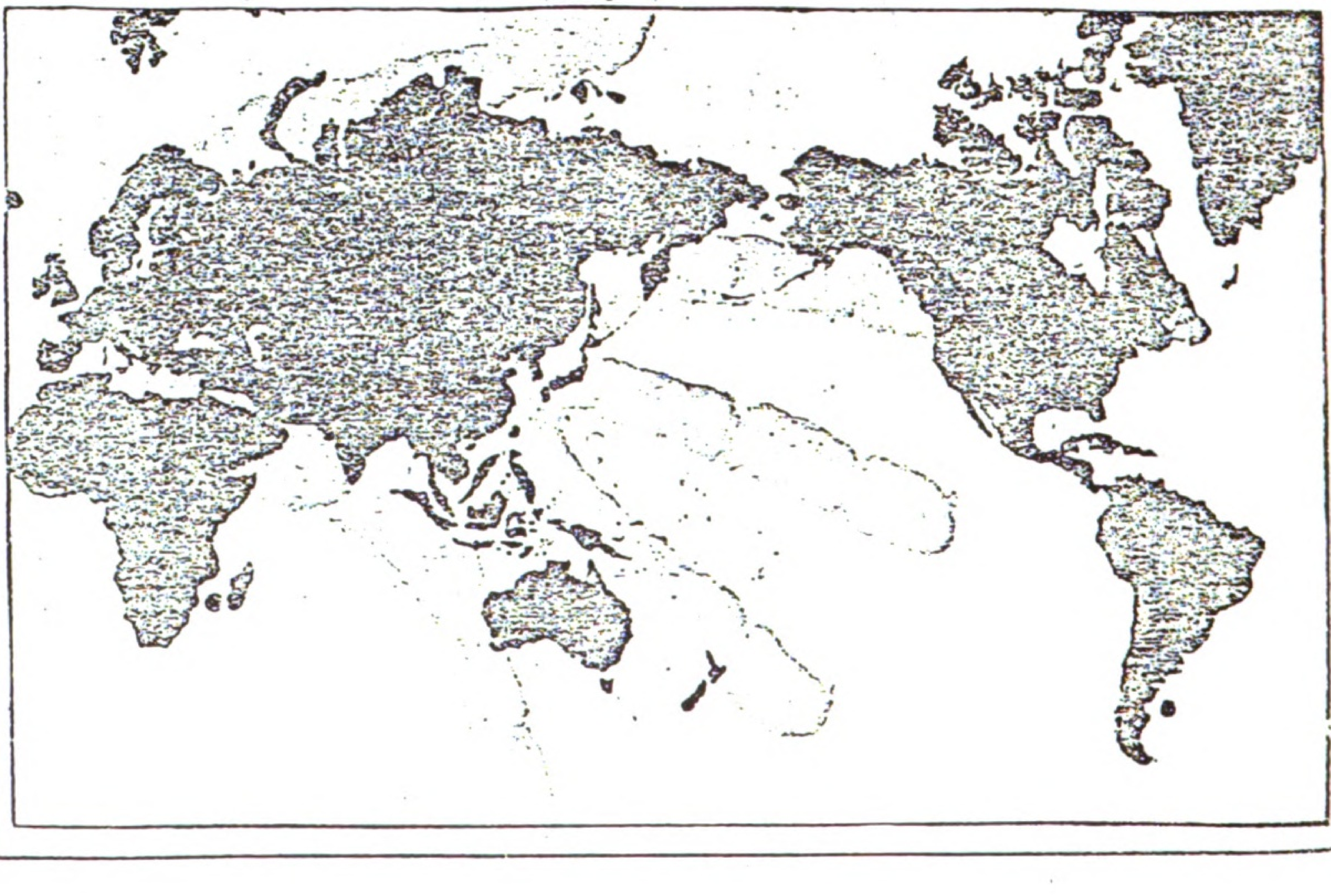
進め

Fighting Magazine
Su Su Me.
No. 5. vol. 1
June. 1923

一部十錢

第一年第五號內容

社會運動に志す婦人に …… 山川菊榮
大空を呼吸しつゝ（獄中斷想）…… 髙田狂二
赤旗の下に眠る佐藤三千夫 …… 赤岐狂平
プロの眼 ……
伊豆諸島村の共産制 ……
檢校旅日記 …… ゴロツキー
首になつた日 …… 井手さし子
議會運動と街頭運動 …… 西雅雄
政治運動と都會及農村
議會運動の重要程度 …… 五十餘家
朝鮮の水平運動 …… 孫永極
メーデーの記 …… 社同人
鈴ケ森だより
國定教科書の批評 …… 久保田涼
社告二つ
山口小靜氏を追ふ …… 山川菊榮
資本主義の二潮流 …… 稻村隆一
無産階級の政治運動 …… 北原龍雄



大正十二年一月三十日第三種郵便物認可　大正十二年六月號　毎月一回一日發行

七月號　青年運動號　豫告

七月一日發行の『進め』第六號を、青年運動號とする事とした。

私等は近時、鬪爭的なる青年運動に、重要なる意義を認めて來た。勞働運動、小作人の運動、水平社の運動、朝鮮人の運動、青年運動などは、何れもそれぞれの環境、それぞれの心理より發生し發展しつゝある運動であるが、之等のすべてが、階級鬪爭の陣營の前には、共同戰線を張らなければならぬ。

此の、共同戰線を構成すべき結合の紐帶として、又楔子として、極めて有用なる役目を果すべきものは青年運動ではないであらうか。

私等は今、此の見解を高調し、青年運動を我が革命行程の流れの中樞に、引き入るゝ事を提唱したいと思ふ。

そうして、今後青年運動のすべての意味に於ける發展に、許さるゝだけの力を振ひたいと思ふ『進め社』に取つて、本號は一つの宣言となるであらう。

支局の希望者に

『進め』の發展の主要なる進路を地方支局の活動に求めたい。雜誌の販賣や廣告の募集に依つて『進め』の發展を扶けてくれる人を募る。若しそれで食ひながら、社會運動に全生活を投じやうと考へる人には、能ふだけの便宜を計りたい。進め社安達謙吉宛申込を乞ふ。

▲今までの申込者に、萬一返事をあげない人があつたら、至急催促して下さい。

研究に關する諸計畫

進め社は、社會主義に關する諸々の研究の爲めに、數個の計畫を樹てゝゐる。讀者諸君の中の贊同者と共に、その實現を計りたいと思ふ。

その一つは地方に講演會を開く事である。會場や廣告の準備をしてくれゝば、講演者をこちらから送る。講演者は勿論社外の人にも依賴し、地方々々の事情や會の性質に依つて選定する。すべての經費は、大體聽講料を取つて支辨する事としたい。

第二は、座談的な小集會を催す事である。之も集る人の希望に依つて、こちらから誰か行く。此の場合は、旅費位は進め社が負擔してもいゝ。

それから、數日間續けて小規模の講習會を開く事もいゝ。三日間、五日間、七日間と云ふが如き、講習は必要智識を大體纏めて吸收する事が出來やう。すべての準備を地方の諸君がやつてくれゝば、適當な講義者を送る事とせう。一人の講義者が全期間を續ける場合ならば、滯在中の費用をそつちに持つて貰ひ、往復の旅費は進め社が負擔する。此のやうな講習會を、此の夏、開く豫定がうも二三ヶ所出來てゐる。ほゞ、進め社の北原が行く事となつてゐる。

又、小規模短期の講習會を、東京で開く事も出來る。それには進め社を寄宿舍と會場とに宛てる。此の場合には、多くの人に、毎日顏ぶれを變えて話をして貰ふ事が出來る。旅費を自辨して一週間位滯京せうと云ふ人が、十人か十五人あれば何時でも開く事にせう。希望する人は、思ひ思ひに申込んで見て下さい。滯京一週間の費用は五圓位で足る。

その他、なほ種々の方法を考へ出して行く積りだが、讀者諸君の方でも考へたら知らして欲しい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大衆は考へる

大衆は常に考へてゐる。

その考へは粗雜に見えて實は正確だ。低調に見えて實は深刻だ。その上大衆の考へは、常に進化し發展し飛躍する。如何に優れたる思想家の思想も、實は大衆の考の反映に他ならない。

大衆の行動の最大の特質は、この『考へ』に基づいてゐる事である。

大正十二年六月　戰鬪・進め・雜誌　第一年第五號

力の欲望に基づく運動

無産階級の運動が、經濟生活の窮乏に原因する事は勿論で、それは歴史的重要性を帶びた事實である。併しながら、經濟生活の窮乏が、無産階級運動の根底の全部ではない。

人には、經濟の欲望、性の欲望など丶共に、力の欲望が抱かれてゐる。經濟の欲望に基いて經濟的闘爭がある限り、力の欲望に基いて、その欲望を充足せしめんとする闘爭が無からざるを得ない。

之を個人の上に就て見るも『馬鹿にするない』の一語が、屢々闘爭の種となる。それは明かに、力の欲望に基く闘爭である。階級闘爭にも、此の欲望に基く部分の存在が認められなければならぬ。

その一例として、先づ水平社の運動を擧げる事が出來る。かの運動を不斷に熱しつゝある濃厚な闘爭心の源泉は、主として社會的輕侮に對する憤激に發してゐる。故にこそ、彼等は所謂差別的用語の一片に對してすら、生命を賭して爭ふのである。貧しさを苦しむは經濟欲求であるが、賤視を憤るのは力の欲望である。水平社運動の心理的特質は、貧困より脱する前に、先づ社會的差別を打破せんとする所にある。水平社の運動を、その當事者が貧困なるを理由として、全部經濟的欲望に基くとし、勞賃要求の運動など丶本質上同一のものと見るは、餘りに分析が不徹底である。

此の點より見て、水平社運動に類似せる、他の一つの運動は、今全國的に興起せんとしてゐる青年運動である。青年運動の主要構成者が、無産の青年である事は云ふまでもないが、運動の心理的根據は、當面の經濟的欲望よりも、力の欲望より受くる刺咬が多量の分子を占めてゐる。

社會改造の運動と經濟上の欲求とは、素より深き機緣を有す。併しながら、改造の運動が、個人々々の經濟的欲望の直接の充足過程でない事を考ふれば、改造運動が經濟的欲望以外の心理的内面を伴はなければならぬ事は明かに推定せらるゝ。そうして、それは主として力の欲望であらうと思ふ。

此の見方が誤つてゐなければ、水平社運動や青年運動が、當面の經濟的欲望のみから出發してゐない所にこそ、それ等の深き革命性が認められなければならぬ。蓋し、革命運動の本流を託すべきは、力の欲望より湧き起る憤激と熱情に依つて急進し飛躍し行く運動でなければならぬからである。

一切の社會運動を經濟的欲望一元に依つて説明せんとし、隨つて地域的に起りつゝある青年運動をさえ、産業のラインに依つて組織せしめんとする程の、唯物史觀の熱愛者には、如上の見解は肯定され得ないかも知れないが、假令その人々に如何に叱られやうとも、我等は是を捨て難い。（北原龍雄）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會運動に投ぜんとする若き女性へ

山川菊榮

一

お手紙拜見いたしました。あなたが溫い慈父慈母の懷を呪ふべき家族制度の巢と感じ、老いたる父母の怒りや涙と共に、親戚故舊の忠言や警告を斥けて、單身上京して社會運動に投ぜられようとする意氣には敬服いたします。そして今のあなたの純眞な憤り、牢乎たる決心が、いつまでも變らぬことを希望せずには居られません。

然し私としては、あなたのような年頃で、あなたのような境遇に育ち、あなたのような憤りに驅られて、一時はあなたと同じような希望と熱心に燃え立つて社會運動に投じようとし、又はそれに一歩を踏み込んだ人々が、父母の膝下で、殊には詩や小說を通じて知り且つ夢想してゐたのとは打つて變つた、豫期せぬ人生の現實に當面して忽ち色を失ひ、程なく初志を飜すといふような例をいくらも目にしてゐますので、なほ一應再應あなたの御參考になるような事情を申述べて見たいと思ふのです。

二

私の知る限りでは、あなたのような地方の小ブルジョアの娘さんで、女學校を出てから二三年たち、兩親が結婚を急ぐ時分になつて、始めて因襲的な結婚制度、因襲的な女の生活に對して深い疑問と反抗心をもつようになる人が中々多いらしい。これは昔のように結婚が容易でなくなり、次第に晩婚の風が地方にも行き渡るに從ひ、結婚前の娘達の間に思慮も出來、外來の刺戟によつて思想も變化して來るからでありませう。とにかく廿歲も越して人間としての自覺の出來かゝつた娘に對して、其娘自身の利害や感情を度外視して、周圍の便宜のみのために不適當な結婚を强制すること、これが現代の若い娘の最も苦痛とする所であり、又これがその娘達の自覺と反抗心とを煽る最强の刺戟でもあるように思はれます。あなたの場合もその一例でありませう。所が是等の多くの娘達の不平は、私の見る所では個人的且つ一時的に限られてゐて、それを動機として現在の社會の根底に橫はる矛盾や不合理の全體に對する、永久的な反抗の必要を覺り、又その要求を强く感ずるほどまでにはならずに終るらしい。いはゞ藁火のように、パッと燃え上つたかと思ふとそれなり消えてしまふ、夢のような反抗の例が多いのです。今日の若い娘は一身上のことに就ては實に多くの不平を云ひます。そして周圍の頑迷無智を罵り嘲る時には實に勇敢に徹底して居ります。けれども實行の段になると一歩も動けない。そして自分一個に直接目前の痛切な利害關係のない問題には、全然無理解で無關心であることが多い。私はこれを特にあなたに對して難詰する譯ではありませんが、私が今まで接した多くの所謂現代的な若い女性の例から推して——殊にはあなたの場合も因襲的な結婚に對する反抗が上京の決心を固めさせた直接の動機であるのを思ふと——或はあなたも、他の多くの先例の示す通り、田吾作の代りに新進の文士か學士と結婚することによつて一切の煩悶が解決され、安心立命を得る底の娘さんではないかといふことを恐れるのです。

その程度の不平、その程度の煩悶ならば、あながち社會運動に投ぜずとも、多くの婦人相談所又は高砂社でさへも解決してくれないとは限りません。

けれども社會運動は、不滿足な結婚に對する一時遁れの手段として利用されるには餘りに重大な、餘りに貴重な仕事であります。あなたは慈父慈母の懷を遁れることによつて、舊い家族制度の羈絆は絕つことが出來もしませう。が、それと同時に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

父母や親戚の干渉より一層面倒な、一層深刻な、一層激しい干渉壓迫があなたの一生に附き纏つて來ることを覺悟なさらなければなりません。

三

あなたはまた社會運動といふものが直ちに個人の生活を自由にするものだと思つて居られはしないでせうか。例へば資本主義を呪ふ社會主義者は、資本主義に反對することそれ自身によつて直ちに資本主義の束縛を脱し、他の一般社會の人々とは全然異つた自由無碍な理想生活を營んでゝもゐるように思ひ、自分も其仲間入りをすることによつて理想的な戀愛をし、理想的な結婚をし、そして理想を謳歌し、理想に醉ふて一生が送れるように考へて居られはしないでせうか。

けれども社會主義の運動は、地上に天國を作るための戰ひであつて、目の前で地獄を極樂に變へて見せるおまじなひではないのです。それどころか、此戰ひに從ふものは、只さへ貧しい無產者の身で、干涉や迫害のために年中失業又は半失業の狀態におかれますし、たとへ職には離れずとも、他の人々が休息や娛樂や家庭の團欒に宛てる餘暇を、運動のために捧げなければならないのですから、運動に關係せぬ人々の二倍三倍もの忙しい働きをしながら、それに二倍三倍する貧乏生活をしなければならないのです。その上檢束投獄も珍しくなければ、反動團體の妨害や威嚇も手を變へ、品を代へて益々激しくなつて來る。

運動全體のためには自分一個の目前の利害や感情は犧牲にしなければならないので、ごく卑近な見方からすれば、個人としては運動に參加することによつて損はしても得をすることはないと思はなければなりません。從つて理想社會に於ける理想生活どころか、現在の資本主義の世の中でも、最も苦痛な、最も損な役まはりを引受けて、未來のより良い社會の土臺石となることに甘んずることが、社會主義者の重要な資格の一つなのです。

もしあなたが社會主義者の中に愛人を得られたとしても、若い二人は世間の家庭のように甘い氣分に許り浸つてはゐられますまい。あなたの愛人は新婚のその夜から何年もの間、監獄に囚はれの身となるかもしれず、運動の必要が命じた時には、いつ何處へ默つて旅行するかも知れず、あなたは其行方を尋ねることすらも許されないでせう。又二人が無事に揃つてゐたところで、湯錢にも事を缺いたり、食事を省いたりする日の續くこともあれば、犬共は絕えず家の周圍を嗅ぎまはり、時には人相の惡い見慣れぬ紳士達がいきなり家庭へ踏み込んで、片端から物を引くり返して家搜しをして行くでせう。資本主義の社會にゐる社會主義者は敵國に身を寄せてゐると同じことで、片時として心を許すことは出來ないのですから、平和な、安易な、物質的にも、精神的にも危險や不安に脅かされることのない生活に馴れた人、又はさうした家庭生活を樂しむことに人生の意義を專ら見出すやうに教育されて來た中流階段の婦人にとつては、これは容易ならぬ試煉であらうと思はれます。

あなたが父母の家庭を裏切つて社會運動に投せられる時、それは單に父母の家庭を裏切るだけでなく、自分を生んだ階級を裏切り、その傳統を裏切り、その教育を裏切つて、新たに純プロレタリアの子として生れ代りプロレタリアの立場とその道德とに適順することを意味するのです。そして階級戰の戰陣に列なる一兵卒として、日々夜々に戰ひの慘苦に身を曝さなければならないのです。この一兵卒の仕事――勇壯な目ざましい功名手柄を擧げにくい、骨が折れて人目につかぬ部署を割あてられてゐる一兵卒の仕事――こそは全軍の勝敗を決する最大重要のそして最も尊敬すべき仕事であるのです。誰にも褒められず、誰にも感謝されず、偶々人から批評される時は侮蔑か嘲罵の言葉しかうけぬ、此無視されがちな一兵卒の仕事に甘んずる覺悟があなたにおありでせうか。

四

あなたが社會運動を理想主義者の理想生活と混同されてはゐないかといふことゝ共に、私は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あなたが此運動を華やかな、悲壯なロマンチックな、變化と興味とに富む冒險的な一種の戲曲に見たて、自分をその戲曲の中の女主人公として描き、其夢想に醉うて居られるのではないかといふことをも恐れます。

あなたはロシアの革命婦人の傳記によつて鼓舞されたといはれますが、書物に書かれた他人の傳記で見れば、貧乏も干渉も迫害も一種の小說的な興味と魅力とを以て迫る許りで、讀者は客觀的にその面白味だけを享樂するので、その苦痛、その辛酸を味はうことの出來るものではありません。例へば人が切られてゐる繪を見れば、恐ろしさは身に泌み〳〵と感じても、自身痛くもなければ血の一滴も流れぬようなものです。傳記や小說に現はれた戲曲化された外國の古い革命運動や革命家の生活を以て、日本現在の運動や運動者の生活を律することも不可能なら、そうした讀物から得た興奮や感激がいつまで續くかも疑問です。

或若い婦人は「斷頭臺も恐るゝに足りませぬ」と揚言して吾々に接近して來ましたが、斷頭臺どころか「學資を斷つ」といふ只一回の親からの通告に肝を冷して、「もう少し修養を積んでから」といふ口實で運動を棄て去りました。恐らく此人が運動をするに十分なだけ修養が出來たと思ふ時節は永久に來ないに違ひありません。然し此人とても最初の興奮の刹那に實際斷頭臺に引かれたのであつたなら、すばらしく立派な劇的な最後を遂げてあつぱれ烈婦の名を恣にし得たかも知れないのです。が、現實の運動は斷頭臺といふような強烈な興奮劑を以て一時に吾々の勇氣を刺戟し、感激に吾を忘れさせる代りに、毎日々々、甚だ引立たない、苦痛で面倒で散文的な、平凡な犠牲を小刻みに〳〵のべつに要求します。勿論吾々は、まさかの場合は斷頭臺をも恐るゝに足らずとせねばならない。けれども一生に一度來るか來ぬか分らぬ斷頭臺に上る時の用意だけはあつても、毎日の戰ひと毎日の犠牲に對して何等の用意もなく、重要な、そして苦痛な事ではありながら華やかでなく、英雄的でない、小さな犠牲の連續を輕侮し嫌惡するならば、社會はいつ今の有樣を變へることが出來ませう。社會運動は賣名運動ではない。それは駈出しの女優で見物をごまかす安芝居ではない。それは實に全世界の無產階級——人類の大部分——が生きるか死ぬかといふ血みどろの生命がけの戰ひであるのです。此重大な刹那に際し、此嚴肅な人生の事實を前にして自己の役割の良し惡しを考へ、その舞臺的効果を思ひ煩らふ不眞面目な遊戲的氣分は、その持主が同志として迎へられるに足りない證據です。

あなたと同じく家庭を離れて運動をしたいといふ或若い娘さんは、上京後の生活をどうするか。事務員をやるか、女工をやるか、女中をやるかといふ私の問に答へて『事務員や女中や女工になる位なら死んだ方がましです。私はプロレタリア作家として一世を動かす創作をしたい許りに上京するのです』といつてよこしました。かういふ人は事務員や女中や女工のような有用な勞働者の尊ぶべき所以を知らず、被搾取者としての婦人の地位に盲目である有害無益な寄生者たる點に於て資本家に毫も劣らず、全く「死んだ方がまし」な穀潰しに過ぎないのです。

五

以上私は或はあなたにとつては無用な、そして馬鹿らしくも思はれそうな事柄を長々と書いて來ました。徒らに因襲を呪ひ徒らに悲鳴を擧げ、徒らに愚痴をこぼすことにばかり長けて、默々として人知れぬ犠牲に堪へ久しきに亙る戰爭の慘苦を忍ぶ底の意思の力を缺く現代の若い女性の興奮し易く、動き易い心の狀態を屢々目にして來た私としては、あなたも又一時の興奮一時の感激に驅られて、或は理想生活の夢を追ひ、或は華やかな革命劇の女主人公に扮した自分の幻にあこがれて、うか〳〵と白熱した戰の渦中に迷ひ込む夢遊病者の一人ではないかと恐れずにはゐられないのです。

どんな苦痛、どんな犠牲、そしてどんな嫌な仕事にも堪へて此運動のために一生を捧げずにはゐられぬだけの強い信念、強

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

い要求があなたのうちに燃えてゐるのでせうか。一身の安易、平穏な家庭生活、親兄弟の滿足、そうした全てのこと――あなたの敎育と境遇とが人生に於ける最も大切な最も有意義なことだと敎へて來た其等一切――を振り切つて好んで凄慘な戰ひの只中に身を曝し、一兵卒の苦痛な然も引立たぬ地位に一生甘んずることが出來さうですか。ブルジョアの娘の安穩な地位を捨て温かな臥床を捨てゝ、いつ外れ彈に當つてのたれ死をするか、路傍で飢え死をするか、獄死するかも分らぬ階級戰の一兵卒に身を落して悔いることはありませんか。今あなたを興奮させ、感激させてゐるような目前の問題、直接の刺戟が去つた後、あなたは果して冷靜な理智と、强固な意思とに訴へて猶且つ永久にこの吾々の道――虐げられたる總ての男女の採るべき唯一の道――を歩むだけの確信がおありですか。社會運動は遊戯ではありません。芝居でもありません。それは苦しい悲慘な戰ひです。この戰ひが要求する絶大の犧牲、それを忍ぶ强固な意思、そは未來の新しい社會へ導く踏石であり、その土臺であります。その踏石となり、その土臺となる覺悟があなたにおありでせうか。

時代と學生

西村よし子

私『變なことを聞くやうですが、今頃の所謂大學生といふもの、思想的一般の傾向はどういふ風なのですか。』

學生『さうですね、他の學校は知りませんが、慶應などでみますと、一人々々みな自分々々のものを以つてゐて、マア個人主義的自由思想學が大部分だといふのが適當でせう。私などはこの自由さ、ノンビリさを好んで入つたのです。』

私『では時代の潮流に刺戟されるつてことはないんですね。』

學生『えゝ勿論そんなことは全くありません。毎年四五百の學生が出ますが、まアその中で一人くらいシッカリしたものを出せばいゝ方なのです。後はたゞ悠々六年間、無事によく遊んだといふより他、何にも持つてゐる奴はありません。學校の根本精神がこのノンビリとしたお坊ちやん式敎育を以つてやつてゐるのですから。一週に七、八時間も出ればいゝ方なので、實にこれぐらいノンキなところはありますまい。研究生などになると、一人々々で先生に都合のいゝ時を注文して、偶に講義を聞くといつた工合ですから。』

私『はゝあ、そんな人々に、時代の推移の分らう筈はありませんわれ、三度の飯を二度にして、併かも一食十何錢のみじめな食事で、長い勞働時間を酷ぎ使はれて讀みたい本の一頁すら讀む力もないほどに過勞して終つて、この人生に何一つ歡びも、光明も見ずに生きてゐる人間のあること等は、到底想像もする人もないでせうねエ。』

學生『勿論、私等にはサッパリそんなことは分りませんよ。』

私『まアそんな温かい湯の中を自由に泳ぎ廻つてゐる人々に、饑の鎖りで縛られてヒッメメかれながら苦役させられてゐる罪のない無産の大衆があらうなどは夢にも氣のつかぬのは、當然ですわれ。』

學生『僕なんか、これでいゝと思つてゐますよ。何日入學して何日卒業したのか何を勉强してゐるのかそんなことは大したことでもなし、氣にもならず、あまり遊ぶ時間が多いので、退屈ざましに音樂をやつたり、ボールをやつて居て、その中には、それで飯の食へるやうな者も出來ます。僕なんかまだ今日まで、大低の奴は學校を出て一、二年就職しますが、後は親の手下でゾウタラにやるのが多いのです。それでよその學校に比べて一番賣れゆきがよいのです。ノビ〳〵と自由なところが氣に入るのださうださうです。』

時代より遙かに遅れた彼等學生は、依然として、革命の暴風を前にノンキな夢を見つゞけてゐる。われ〳〵は決して今の智識階級(?)青年に何ものをも期待してはならぬ。彼等は資本主義の温床に咲いた痴呆的無意義有害な花である。

ほんとに、――蹴飛して終つてやりたいとツク〴〵思はずにはゐられない。今頃の學生は、遊蕩文學者の眞似と、一人よがりのオペラの眞似と、ゴムの球を投げたり投げられして遊ぶことを以つて、または到れり盡せりの自己享樂こそ人生至上の哲學と心得てゐるのだから堪らないわけである。

尤もすべての青年學生が、かく低能でかく無氣力ではない。中には全く血の滲むやうな運動を、覺めても寢ても續けてゐる人もある。學生が社會運動の先驅者として果しつゝある貢獻は何人も認めなければならぬ。又、此の頃勃興して來た無産青年の運動の中には、智識の上にも品性の上にも、最も優れた人々を含んでゐる。私等はそれ等の人々に對して、素より心からなる尊敬を拂ふ。

併しながら、それ等の人々は、眞に撰ばれたる少數である。百人中一人の勇者である。九十九人の多數は全く悲しき、茲に現はされた如き人々であらう。それにつけても、歴史を押し進めて、社會改造の大使命を果して行く責任が無産階級同胞の肩上に置かれて居る事を今更の如く考へる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大空を呼吸しつゝ

—獄中の斷想—

福田狂二

之は實際獄中で執筆したまゝである。嚴しき監視の眼を潜つて、書冊の餘白に走り書きした鉛筆の跡である。文末の數字は執筆の年月日。

■朝起きて麗らかなる日、獄窓から大空を呼吸す。快さたとへんかたなし。(十、五、一)

■雨が降つてゐる。私は今、苦樂一如の境地に立つてゐる、人間を離れて人間の感覺はない。私の心臟の皷動は世界の運動である、私の呼吸は宇宙の活動である。(十、五、二)

■午後一時、今、私は社會に出たいと思ふ心は少しも起らぬ、世間は煩さい、監獄は氣樂だ。けれども私のような達觀の士でも、暫く社會にゐると又監獄に這入るがチヨツと厭やな氣持もする。之れが人情かも知れない。今日、今決して出獄を望まないが、社會革命の戰線に參加せんが爲めに出なくてはならぬ。(十、一、三)

■『帶劍の囚人』は朝四時に起き夕六時半に歸る。終日營々たり、而して得る所漸く糊口するのみ。彼も同胞なり、私は資本主義國家を憎まざらんと欲するも得ざるなり。(十、一、五)

■心眼を開けば、大三千世界も視野に收められ、宇宙の創始も目前に見るが如し。吾れは宇宙宇宙は吾れとの悟境に入る、是なる哉、是なる哉。佛が山に入つて大悟せしことを知る。(八、十、三)

■古い木は朽ちてゐる、新しい家は總べて新らしい木を以て建てなければならぬ。(十、二、三)

■日本の歷史は弱い者虐め、貧乏人泣かせの歷史である、只一人、大鹽中齋に至つては然らざるなり。人多く長兵衛を擧ぐ、然るに彼の仁俠や遊戲的のみ。日本人は禍なる哉。(九、五、十)

■獄裡に報あり「レニン死せり」と。然らず然らず、余はその然らざるを祈るものなり。若し彼等死すとも、彼の志や不朽、人類と共にあり、日月と共にあり。(十、三、六)

■嗚呼！當年の西川光次郎出でざるか、××××生れざるか。(十、三、七)

■私は三つの生命が欲しい。一つは革命家となつて、地上に新社會を建てる爲めに捨てん、一つはホントウに戀愛をして、ホントウに戀愛を味ひ、ホントウに戀愛に醉ふて見たい。一つは農夫となつて、田園の風光に接し、この自然の限りない慈しみを享けて、安らかに人生を暮して見たい。(八、七、十二)

■地上に新社會を建てんとするものは愚者也。貧乏來り嘲罵來り牢獄來り、斷頭臺來る。○○に媚び富者に阿る者は賢者也。爵位來り勳章來り黃金來り學位來り株券來る。然れども吾れは愚者たらん。そこに大なる喜びあり、そこに大なる安心あり。(八、七、二十)

■人類の最大罪惡は××に加擔して同胞を虐壓すること也。富豪に味方して勞働者を搾取すること也。(八、七、三十)

■吾れ日本に生れたるを喜ぶ。この頑迷不靈なる國、日本、正義人道を踏み躪る國、日本、弱者を虐げ、貧人を泣かしむる國日本に生れたるを喜ぶ。鼎鑊吾が志を試さん、刀鋸吾が操を鍛えん。吾れはこの迫害多き日本に生れたるを衷心より喜ぶ。この國に於てこそ、我等の志、我等の運動、張合あり、意義あれば也。(九、一、三)

■咄！汝太陽を消さんとするか咄！汝大洋を干さんとするか。(九、十、三)

■嗚呼！偉人出でざるか………嗚呼！白熊(西川光次郎氏活躍當時の筆名)—嗚呼！(九、二、三)

■生ける白熊は死屍也。何に人か彼に靈魂を授けざる。(九、三、一)

■嗚呼！吾が渴仰の友—×水！(九、三、二)

■汝自身を知れ。帝國主義者よ、軍國主義者よ、權力者よ、資本家よ。汝は××でないか、××××ではないか、××ではないか、××××でないか。然し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

て我等に對して平和を要求す、秩序を要求す、合法を要求す。咄！汝自身を知れ。(九、四、四)

■秩序とは資本家の爲なら死ぬまで働かせることである。××とは資本家の爲め火の中水の中でも飛び込むことである。(九、五、五)

■平和とは資本家の利益が、軍隊の銃劒や警察官のサーベルで擁護せらるゝ狀態である。(九、六、五)

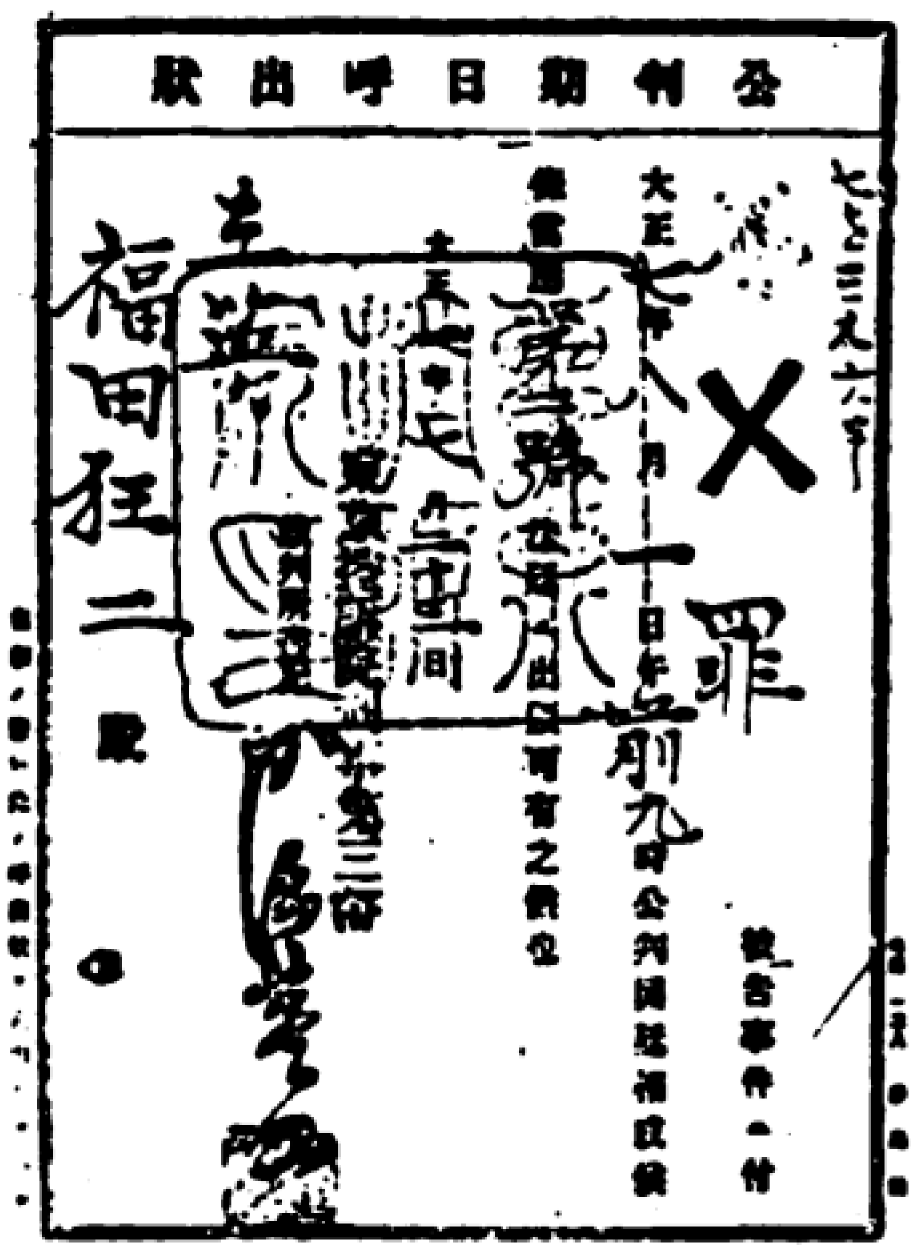
■成敗を氣にせざる人、生死を度外する人、運命に甘んずる人是が本當の革命家である、本當に話るに足る人である。(九、九、三十)

■誰かよく洪水を堰止むるものぞ、誰れかよく猛火を遮るものぞ。洪水を堰止めんと欲せば即ち溺る、猛火を遮らんと欲せば即ち燒く。況んや、誰かよく革命を遮らん。(七、十、二五)

■嗚呼革命は來れり！革命は！(八、五、二)

■日本人は眞理に對して目を閉ぢ、正義に對して耳を塞ぐ謙遜なる人種である。日本人は殿堂に禮拜し、迷信に勇敢なる朴直なる人種である。日本人は與へられたる其儘に信じて考ふる所なき柔順なる人種である。日本人は味方を愛せず、敵を惡まざる善良なる人種である。日本人は自由を厭ひ奴隷を喜ぶ。勤勉なる人種である。日本人は自ら苦しみ自ら縛り自ら縊る賢明なる人種である。嗚呼！日本人は憐むべき哉、嗚呼！日本人は禍なる哉。(一〇、五、七)

■鰯の頭も信ずれば御利益ありと。然るに××に多大の供物を捧げて、更に御利益なし。嗟！吾人は寧ろ鰯の頭を信せんか。(一〇、五、二四)


公判期日呼出狀

被告事件ニ付

福田狂二 殿

■資本家は、人類史上の、最も偉大なる偶像である。(一〇、五、二六)

■何れの國に於ても、社會主義者は縛られ斬られて、初めて勢を得る。日本に於ては未だ此域に達せず。私は今より一層多く社會主義者に對して、投獄と絞首臺の來らんことを願ふものなり。苟くも社會主義を唱ふるものは此の覺悟なかるべからず。是に於て初めて革命運動が眞劍となる。(一〇、五、二八)

■思想より實行へ！憧憬より現實に！(一〇、五、三一)

■想起す！明治四十一年同志半田一郎君と、横須賀兵營に於て將來の革命を談じ總同盟罷工に及んだ。併しながら當時の同志は、之を以つて單なる政治革命の手段也として、一顧をも與へず排斥した。之れ實に當時の日本世界の社會主義者間に抱かれし所の、社會革命は總同盟罷工に依り、政治革命は軍隊に依るを法則の如く考へられ、社會改革と政治革命と實際を洞察し得ざりし謬想に基く。然るに千九百十七年、露國に於ては、自覺せる兵卒に依つて偉大なる功を奏した。我等の考察せることは事實となつた。我等の主張したことが證明せられた。(一〇、四、六)

■昔の町奴は、弱きを扶け、強きを挫き、仁人身を殺すに似たり。今の俠客は弱い者虐め、影辨慶、強い者には眞向額を土足で蹴られても閉口頓首する。扨ても／＼世の中は變れば變るものか。(一〇、七、三)

■今日の暑さは大分酷い。五月雨が上つて俄に涸れたからであらう。が紅塵百尺の中——煤煙空に漂ふ所——この暑さに衣食に營々として奔走するものは堪えられないであらう。或は又、之を泉濱に避くる徒も、浮世の苦鬪を忘れないであらう。私共は幸福である、清風靜かに訪れ菜食勞せずして供はり、自然の酷暑も人生の苦熱もない所——之れ即ち武陵桃原の里である。何人にこの涼味がわかるだらうか。何人にこの禪味がわからうか。人生は面白い。哲人の胸中、到る處、山紫に水明かに——四時涼風徐來——清泉滾々として流る。(一〇、八、四)

～～～～～～～

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

失はれた二人の同志

赤旗の下に眠る佐藤三千夫

赤岐狂平

一九二三年一月の中旬の朝であつた。各勞働組合の赤い會旗と第五軍團の軍旗とに護られ、轟き渡るインタナショナル歌の合唱の中に俺達の列車は靜々と第一チタの停車場を浦鹽に向つて出發した。ベスチヤンカの山には朝日が俺達の行程を祝福するが如くに輝き第二チタの市街は淡い煙につゝまれてゐる。列車がインゴダの鐵橋を渡り第二チタの停車場を過ぎた時に俺は俺の助手であるインターナショナルッ兒と朝飼の食卓についた。口のかけた鐵瓶から茶を飲みながら彼は『同志佐藤が居たらなー』と云ふた。俺も建設の事業を一目も見ずして逝いた同志佐藤のことを思ひ出した。

同志佐藤は名を三千夫と云ふて、明治三十三年一月、宮城縣登米郡登米町寺池九日町五番地に生れた。そうして青春の血の燃ゆる二十四歳大正十一年十二月四日、ハバロフスクの陸軍病院で革命の犧牲として尊い生命を捧げたのである。

同志佐藤は××の軍國的資本主義の奴隷として苦役せられてゐる、××の無產階級と兵卒にプロレタリアの使命とインターナショナルの精神を傳へる爲め共產黨員として、最も困難なる任務に就いた。

一九二二年六月であつた。當時沿海州には雪隱詰めになつた日本軍が、スパスカヤ、ニコリスク、浦鹽と駐屯して逃げ腰の白軍を支持してゐた。スパスカヤ以南の鐵道とニコリスク、ウラジオの線とで三角形になつた所その凹角に凸出した山の間にアヌーチノの部落がある。そこには沿海州パルチザンの司令部と共產黨支部があつた。同志佐藤は數名の同志——朝鮮人、支那人、ロシア人等と共に重大な任務を帶びてアヌーチノに向つた。イマン停車場からアヌーチノに行くには、險惡の山道を數日、馬車又は徒歩でゆかなければならぬ。嶺づたい谷づたいに行く沿道には部落らしい部落とてはない。彼等は今日小流の畔に露營の夢をむさぼり、明日は住む人もない荒家に一夜の露をしのいで七月の下旬目的地に這入つた。

目的地に這入つた彼等は、人間業とは云はれない活動を始めた。物質的窮乏は彼等をして益々奮起せしめた。九月には日本軍が撤退する風評が此の山の中にも聞えた。彼等の活動は益々猛烈になり機敏になつた。

十月になると白軍が窮鼠的攻撃を始めた。白軍騎兵の數百は赤軍の虛を衝いて、アヌーチノの村に攻め寄せた。砲彈は雨霰と飛んでくる。同志佐藤は他の同志と共に銃を執つて第一線に立つた。

彼れは其の時の彼等の勇敢な戰闘振りと白軍騎兵の間抜け加減をいつも面白く話しては最後に『麿がネ……』と笑はせる。『麿』とは同志佐藤の俺達の間に於けるニックネームだ。『麿』は高島屋の聲色を得意としてゐた。そうして高島屋の聲色？でた。『そちや、みめよき女子じやのう。麿が今宵のとぎを致せ、よいか？』と、いつも皆を笑はせた。それから同志佐藤は『麿』と云ふ名を貰つた。

麿は詩人だ。而も彼は漢詩をよくした。プロレタリアの藝術を漢詩によつて現はし得る人は秋水以來であらう。麿はその第一人者だ。

果てしなき過去より未來へ
一杯にひろがれる暗闇を
小さき火玉のコロ〳〵と
ころがり行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

×

人々は皆
この火玉を追ひて狂亂す。

×

人の子を無造作に吐く暗闇は
走りつかれてかの火玉に
追ひつきかねし人々を
後から〳〵と呑んで行く。

×

火の玉はコロ〳〵ところがつて行く
永遠の闇へ！

こんな詩も彼の遺稿の中から出た。彼が病床で一人淋しく横つてゐる時に、手帳の端にかきつけたものであらう。

彼はアヌーチノから只一人歸る時に、數日雨に濡れて衣類を干す事も出來ずに山の中を歩いた。而も食はず飲まずに！ 手紙の一節には、その時の事がこう書いてある。

十二日(十月)には四五露里も歩いたら日が暮れたので途中の朝鮮人の家に厄介になり、次の日はスタラヤ、スキツエフカまで強行軍しました。隨分暑かつたが夕方朝鮮人の宅に着いたときは寒くて體がふるへました。兎に角それまでは無事でしたが其の翌日は一日雨降り、しかも山路ばかりを歩いたので身體が綿の樣につかれた。跣足になれば足裏が痛い。靴をはいたまゝ歩いてゐると「マメ」が出來て堪へ切れぬ程痛む。遂に豫定通りには行かなくて濡れ鼠の體で「ヤコリエフカ」六露里手前の村で一泊濡れた衣物を干すことも出來ず、頭に熱があり、下痢がするのでテッキリ赤痢にでもなつたんだと悲觀した。翌十五日は痛い四肢五體をひきづつて牛の樣に除行し、午前十一時頃漸く「ヤコリエフカ」に着いた。

麿は此の時病を得た。病軀をもかまはず數日無理矢理に旅行をつゞけてハバロフスクに十月廿七八日頃に着いた。着いて旅館の一室に横はつた時には既に頭が上らなかつた。哈市共產黨では健いプロレタリアの闘士の身の上を案じて陸軍病院に收容し看護と治療に努めた。然し！温かい、やさしい、コンムニスカ（女の黨員）の看護も其の効なくして、麿は十二月四日の晩赤旗の下に、インターナショナル的プロレタリアとして、アムール河畔に逝いた。

彼の葬式は赤旗の下に行はれた。

浦鹽は陷ちてプロレタリアの國は西はバルチック海より東は日本海に亘るやうになつた。處が一日も早くと希つた浦鹽は占領せられ、ルスキー島には赤旗が輝くやうになつた。然し彼は遂に之を見ることが出來なかつた。

俺達の列車は六日目に豫定よりも四時間早く哈市に着いた。インターナショナルッ兒と俺とは直に馬車を陸軍墓地に飛ばした。守備隊の兵舍につらなる丘の陸軍墓地には、美しく並んでゐる葉のない白樺に圍まれて、星——インターナショナルのマーク——を頂いた無數の墓標が並んでゐる。赤旗に護られ花環に飾られた墓標には『日本共產黨員同志アサダ・サトウ』と刻まれてあつた。

俺とインターナショナルッ兒とは靜かに雪の上に停立んで墓標を眺めた。唯物主義者の矛盾が輕い皮肉となつて現はれた。馬鹿！俺達もやつぱり人間なのだ！ インタナショナルッ子の兩の睫には涙が凍つてゐた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同志山口小靜氏を憶ふ

山川菊榮

一

私達の間で最も前途を囑望されてゐた若い闘士の一人吉田梅子事山口小靜氏を、故人として茲に紹介しなければならぬとは何といふ殘酷な運命であらう。三年前、病痾を醫すために臺灣の父母の膝下へ歸つた氏は、本年四月、新たに養ひ得た健康と英氣とを以て上京し無産階級運動の第一線に立つ豫定であつた。然るに待ちに待つたその上京期を目前に控へた三月二十七日、遽かに病革つて臺北病院の一室に二十四歳の短い一生を終つたのである。

山口氏が始めて病を得られたのは十七八歳の頃だといふことであるが、それ以來、病狀は一進一退してゐた間に、兎に角氏は女子高等師範文科四年まで漕ぎつけた。氏が始めて私達の家へ見えたのは大正九年、廿一歳の夏で、學校の方はあと半年餘りで卒業といふ時だつた。小ブルジョア的な家庭から出た社會主義者は皆さうであるとは云へ、氏のように極端な皇室中心主義の中に育つた人も珍しい。氏の父君は漢學者で、新聞記者として日清戰爭に從軍、北白川宮に從つて臺灣に入り、後、宮を祭つた臺灣神社の宮司となつて今日に至つた人で、祖父君も漢學者で土地の倫理學の先生、母君も著名な國學者の娘で、兄君は帝大法科在學中、上杉博士の崇拜者で興國同志會員であつた。父君が故人にかけられた第一の大望は、高師卒業後、女子學習院の先生となつて宮樣方のお相手を務めることだつたと、故人が笑ひながら話したことも今は徒らに思ひ出の種である。

然し山口氏があれだけ敏感な、正直な勇氣のある人でなかつたら、今頃は或は父君の理想通り、忠孝兩全の標本となつてゐたかも知れない。その可能性は十分あつた位、學校時代の氏は成績拔群の秀才として認められてゐたのであつた。が大正九年の春、當時貝原たい子氏(今の西夫人)等と共に淀橋の女子大學で急進的な女學生の一團を作つてゐた林てる氏との交際が始まつた頃から、氏の思想は急激に變化して、無産階級運動の闘士としての自覺と熱望とに燃えるようになつた。私達の仲間で一番新しい人が一番眞劍で、一番熱心だ』と林氏が常に噂されたことを今にして思ひ出さずにはゐられない。

大正九年の九月から、山口氏は高熱が續いて學校に出られぬようになつた。當時氏自身としては切に退學を希望してゐたが、學校側では其卓越した才能を惜しんで、どうしても退學を肯ぜず、遂に妥協して一ケ年休學となつた。然し山口氏が學校の希望を容れさへしたなら、假試驗で他の同級生と共に、大正十年度に卒業することは出來たのである。これは此後一年足らずの後に、社會主義運動に接近した廉で、本人に無斷で休學中の氏に突然諭旨退學を斷行した高等師範の名譽のために、特に記しておく必要がある。

二

山口氏は口數は多い方でなかつたが、誠にノンビリとした氣性の無邪氣な樂天家で、女には珍しく豁達なそして直情徑行の人であつた。隨つて誤解されるとか僻みを起されるとかいふ懸念なしに遠慮なく物の云へる點で私にとつては最も氣持のよい人であつた。又私に向つて(恐らく誰にでもさうであつたらうが)無遠慮に物を聞いたり批評したり間違ひを指摘したりする點でも他に例のない人であつた。そして互に何を云つても少しもわだかまりなく、自分の失敗を指摘しても人のことをいふ塲合でも、話したあとではとても氣持よささうに『ハツ……』と笑ふのが常であつた。かうした天眞爛熳な、率直な性質から起つたエピソートは少くない。

無邪氣で呑氣な若い山口氏は、驚くべき樂天家で、いつも好都合な條件ばかりを見て頭の中で色々な計畫を立てゝゐた。毛糸の行商を始める話で非常に乘氣だつたりした時『あなたに商賣ができるものですか』『そんなことはありません、出來ますとも』など、笑ひながら私と云合つたこともある。いつも都合のいゝ方面だけを見て、不利な方面を全然勘定にいれない計畫に對し、その決斷の早すぎることに對して、私は何度無遠慮な批評を加へたことだらう? 然し山口氏はズボラな無責任なことは嫌ひで、人に迷惑をかけることや世話になることについては、寧ろ潔癖といつてよい位、几帳面な所のあつた人であつた。

三

大正十年七月、私達の家で水曜會を始めた時、山口氏も最初の會員の一人となり、九月には山口氏の講演の番になつてゐた。然し九月初旬には慶應病院に二週間ほど入院して扁桃腺を切斷したし、病氣のために歸國の期も迫つてゐたのであつたが、再上京の日まで延期してはといふ私の勸告を斥けて、自分で起稿した『ハンガリーの勞農革命』を讀むために、九月下旬のドシャ降りの寒い雨の夜を、わざ〳〵千駄ケ谷から大森まで出て來た。大抵の娘なら男子の先輩ばかりの中で初講演をやることなどは厭がる所を、病氣を推して進んで義務を果す所に山口氏の大膽な、しつかりした性質がよく現はれてゐた。山口氏はまた最初の赤瀾會員で、赤瀾會が講演者のないためにダレて困るといふ話を聞くと齒痒がつて『月に二度位なら、私が勉強して何かやります』と力んでゐたこともあつたがそれも病氣のために果さなかつた。但し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一度例會に出席した時、伊藤野枝氏の講演があつたさかで『私が質問をしたら、野枝さんは返事をする代りに怒つてしまつたんです。ハツハ………』と例の調子で氣さくに笑つて話したことがある。

山口氏は大正九年の十月と十一月を病院で過して、十二月初旬から翌年の二月初めまで、均が靜養してゐた茅ヶ崎の假住居のすぐ傍に間借をして病を養つた。其頃一家のように懇意にしてゐたので、山口氏から國許へ均のことなどを書き送つたと見へて『親孝行の點だけは眞似をせよ』といふ父君の手紙が來たこともあり、其『親孝行』の御褒美に臺灣のお菓子と果物を山口氏の兩親から送られたこと、均が大森へその御褒美を持ち返つて自慢したこともある。二月から五月まで山口氏は鵠沼の百姓家で自炊してゐたが、丁度その頃、諭旨退學の問題が起つて、國許の兩親との意見の不一致から、山口氏は送金を斷つて、病人の身で就職すべく上京した。それから九月下旬に――其頃には兩親との間に諒解ができてゐた――醫者の勸告に餘儀なくされて歸國するまで、就職のために奔走し心勞してゐたが、當時の悼ましさを思ふと今更に私の心は暗くなる。

歸臺後の山口氏は臺灣の青年の間の宣傳に専ら努めてゐた樣子であつた。臺灣人の間には朝鮮と同じく民族的な反抗心が旺盛で、内地人はひたすら猜疑を以て見られるのに、山口氏だけは、臺灣唯一の社會主義者として警察の干渉が嚴しかつただけ、最初から島人の信用と尊敬とを集めることが出來、從つて山口氏と臺灣青年とは自然に僚友としての情愛で固く結合されて行つた。山口氏は自分の勉強と共に臺灣青年の啓發のために種々の出版物を集めて宣傳と研究とに日を送つてゐた。そして彼等の單なる民族的反抗心を階級意識に進展さすべく努力してゐた。

昨年の夏は病氣のために二ヶ月入院してゐたといふに拘らず、全島に渡つてロシア飢饉救濟運動の先鞭をつけ、音樂會や繪はがきの收入總計五百餘圓を送つてよこした。其頃英文の資本論をひとりで讀み出してゐるといふ便りもあつた。此間にベーベル、ラツパポート其他の反譯を私のためにせつせと手傳つてゐてくれた。昨年春からは暫く臺北の宗教女學校で教鞭も執つてゐた。昨年十二月初旬臺灣の青年を集めてマルクス研究會を組織するについて書籍を送つてくれといつてよこした。所が其手紙が途中で開封されたものと見えて、臺北の警察は大狼狽で山口氏の父君に嚴談を持ち込み、其結果、父君は宮司の職を辭し、山口氏は上京することになつた。然し何分病人なのでして父君の意見で本春三月まで上京を延期することゝなり、其代り三月までは音信を斷つといふ手紙の來たのが、私への最後の便りであつた。其後私は上京の期日を問合せたり『種まく人』の國際婦人デー紀念號への執筆を依賴したりしたが遂に返事がなかつた。餘り久しく便りのないのを案じて、三月二十日、山口氏の恩師河崎なつ子氏を訪ひ、安否問合せ方を依賴したのであつたが、その手紙の着いた時、氏は既に此世の人でなかつたのである。

山口氏の明敏な頭腦、豁達な氣性、強い意思は何人も敬愛する所ではあつたがとりわけ第一の知己は氏が高等師範に在學時代から早くも其將來に囑望された河崎なつ子氏であつた。氏は昨年の夏、山口氏が就職難に苦しんだ時代に生活保障してゐたゝめに警察から筋違ひの干渉を蒙つて其宿を引拂はねばならぬ破目にまで落入つた。昨年夏、飢饉運動で私がはじめて河崎氏に出あつた時、氏は初對面の挨拶の代りに故小靜氏の推讃の辭で口を切られた。『私が十年餘り、方々の學校を敎へた中で、あんな生徒はありませんでした。あの人はあなた方の寶ですよ。あの人は大事になさらなければいけませんよ』これが河崎氏の第一の言葉であつた。そして去三月、私が山口氏上京後の話をした時も、『あの人なら私が生活を一切引うけて勉強させます。あの人ならどんなにも世話します』かう云つて氏は飽かず故人を推稱されたのであつた。それより一月にならぬ今日『私のように親も兄弟も子供も夫もない身は其等總てに對する愛着をあの人一人に集めてゐましたに』かうした嘆の手紙を氏から受けようとは誰が思ひもかけよう？

歸國後、私との間は文通も自由でなかつたゝめに、何もかも上京の節の樂しみにと、互に用事を簡單に認ためたあとに書き足すのを常として ゐた。今日は來るか、明日は便りがあるかと待ちに待つた其人、私の將來の總てのプログラムの中に編み込まれてゐた其人は、もはや再びあの靜かな、そして快活な笑顏を以て現はれては來ないのである。國へ歸つたがための死と思へば、今更に默つて歸國を許した自分が恨めしく、歸國を勸めた醫者さへ恨まれる。けれども歸國を勸めた醫者は、東京にゐればあと二三年の生命と豫言したのであつた。して見れば同じ短い生命とすれば、內地の運動の遠く及ばぬ臺灣青年の間にい、種子を播きに行つただけでも、山口氏の歸國は無意味でなかつたと思はれる。臺灣の一同志が私へよせられた手紙の次の一節は、氏にとつての何よりの手向の言葉であらう。

『四月末まではなほれると樂觀し豫期してゐたかれは今や歸らぬ旅に立つた……けれども無意義な死ではなかつた。戰場に立つて彈丸を供給して殉職したのであつた。戰は正に開けてゐる。強敵を目の前に控へて死せるは不本意に違ひない。しかし犬死ではなかつた。……』

吾等は徒らに、過去を嘆き悲しむことは許されない。吾々は過去を悲しむ暇に未來のために鬪はねばならぬ。私は吾々の最愛の同志山口小靜氏が心血を濺いだ臺灣の無產階級運動の發展を祝福することによつて、故人の靈と共に自ら自身の心の慰めとしたい。あゝ、三度血を吐きながら病院のベツドの上に臨終の日までペンを執つたその人の記憶よ。永くわが無產階級の男女同志の間に生きよ。

山川さんの此の文章は、山口さんの譯述になる『ハンガリーの勞農革命』（『社會主義研究』所載）と合はされ水曜會パンフレットの一つとして近刊される。定價は十錢位であらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

魔術の種あかし（二）

—國定教科書の批評—

久保田涼

一太郎やあい

尋常小學國語讀本卷七第十三

日露戰爭の當時のこと、軍人を乘せた御用船が今しも港を出やうとしたその時小さな包を脊負つた六十四五の老婆が人を押分けて出て來て「一太郎やあいその船に乘つて居るなら鐵砲を上げろ」と御用船に向つて叫んだすると甲板の上で鐵砲を上げたものがある。老婆は更に「うちのことはしんぱいするな。××××××××××××××××××××××××××××××。」すると又鐵砲を上げたのがかすかに見えたので老婆は安心して其處に坐つた。この老婆は今朝から五里の山道をわらぢがけで歩いて來たのだ云々と言ふ事であるが×××××××××は頗る物足ないものだ。老先短い老婆が、五里の山道を越えて生還を期しがたい我愛兒の出征を送る場合に、その心に起る感情は、その口をついて出る言葉は決して是だけのものではあるまいと思ふ。道徳的見地からの批判はさて置いて（道徳と人情とは必しも一致するものではないから）これでは全然親子の情は現れては居ない。×リタリズムの立場から見たらこうした母親が理想の母かも知れないが、人類といふ目から見れば×××離れたミリタリズムの××××でしかない。殊に「×××××××××××××」といつた老婆は大變な×××をしてゐる戰爭に行くのは×××××××××××××××××××××××なのだ。資本家の販路獲得のためだ。何もしらない純朴の×××××××××××××さへあるに、麗々しく×××××××××××××上げるとはさても罪の深い文部省の先生その なる果や、やはかよろしかアありませんせ。

お役人やあい。婦てるなやあい

胃とからだ

尋常小學國語讀本卷八第廿五

或時口耳目手足等が申合せて胃に向つてストライキを宣告した。處が數日たつて見ると、困つたのは胃ではなくて、却つて耳目手足だつた。それを見た胃はこう言つて居る。

「君等はこうなる事を知らなかつたのですか。僕はたゞ坐つて居て物を食ふ丈のものではありません。食つたものをこなして、之を血の製造場へ送るのが僕の役目であつて、僕がもし食物をこなさなかつたなら、からだを養ふ所の血がどうして出來ませう。君等は僕を苦しめようとして、此の數日の間少しも食物を送つてよこしませんでした。その爲に新しい血が出來なくなつて、かへつて君等は自分で苦しむ樣になつたのです。これは全く君等が自分で招いたのであります。今になつて始めてお分りになるでせう。君等が若し僕に食物を送るために働いたといふなら、僕も又君等を養ふために骨を折つたといひます。こんなわけですから、これから後は互に親み合つて暮しませう。世の中といふものはすべて相持のものです。」

人體を支持するに胃の存在胃の働は缺く可らざるものであるに反して、社會は胃の存在即資本家の存在を必要としない。社會の生産は胃がなくとも資本家がなくとも立派に成立して行くのである。資本家と生産機關とは全然別のものである。現在資本家が生産に對する態度を、生産機關の管理者と單に出資者としての二ツに分類される。我々は生産機關の管理者の存在を否定するものでも又それに對する相當の報酬を拒むものでもないが、だからと云つてそれが、資本家の存在を認容すると云ふ事にはならない。生産機關の管理は本質的に資本に何等の關係を持たない。資本の土臺に立脚する彼等の手に管理させればこそ利害の打算から屢々恐慌を來し勞働階級をして塗炭の苦に墮せしむるのである。出資を口實に搾取する等とは以ての外である。資本は剩餘價値の集

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

積である。他人の褌で角力をとると云ふ事は古來隨分虫の好いたとへにされて居たが、他人いゝの褌で、他人に角力をとらせてその報酬の大部分は奪つて了ふと云ふのが今の資本家である。「俺は君等に角力をとらせたのだから、君等が報酬の大部分を俺によこすのは當然だ」と云つたらそれは隨分亂暴な胴慾な言葉である。處がこの亂暴が胴慾がいゝいゝ、があたりまへとして行はれて居るのが今の社會である。それを又「御尤です」と感心せよといふのが…………………である。そして彼等の言に隨ふと、だから「世の中といふものはすべて相持のもの－なそうである相持なら、資本家や地主の繁榮は即ち小作人勞働者の繁榮を證明する筈なのに彼等が年々食ひ肥つて行くに反して小作人勞働者の益々飢餓に迫られつゝあるは、文部省の先生！コリヤ一體どういふ譯で御座ンすかい？

慈　善

高等小學讀本卷二第二十五課

『天は人の上に人を造らず。人の下に人を造らず。』といへども人の貧富ばかり千差萬別なるはなし。飽食暖衣何不足なく一生を送るもあれば、日々營々としてなほ生活に追はるゝもあり。』

表面丈にしろ社會の現狀の幾分判るのは感心だがその解釋が滑稽だ。

國定教科書中の××文書

頼杏坪が備後の北部地方の民政に從事した當時、其の地方は一揆强訴等が絶えまなくあつた。其處で杏坪は惠蘇郡山王社に七十歳以上の老人を集めて酒肴をそなへて大變に御馳走をした。貧困の農奴が酒肴をそなへて父老を喜す事は容易の業ではないのに、××××をしたればこそそれが出來たのである。理屈は兎に角事實上××××の賜物だつたのである。我々は今迄××××××××言ふものは不隱行爲だと思つて愼んで居たのに、今國民教育の基本となる國定教科書によつて、決して不隱な行爲でない許りか、それによつて無產階級では仲々に覺束ない酒肴をそなへて父老を喜ばし以て孝養の實を上げる事さへも出來ると言ふ事を知つて心强く感ずるのである。

無產の小作人勞働者よ汝等若し父老に孝養をつくさうと欲せば有りがたき國定教科書の教導に順ひ、須く×××××××××××××すべきである。その時汝等の施政者は鎭守の社殿に來り酒肴をそなへて汝等が父老を歡ばすべければなり。（高等小學修身卷一第八課）

『貧富は大抵その人の賢愚强弱によるものにして、禍福二つながら自ら招くものなり。』私が小學校時代の友人を見ても、又指導した生徒を見ても、事實は文部省の先生が、机の上でこね上げた僞論とは少々相違して貧富は大抵その人の賢愚强弱によらずして、搾取と被搾取の何れの階級に屬するかにある様だ。小學校をビリから三番で卒業した某地主の子息はやはり地主の嗣子であり、病弱でヒョロヒョロして居た某資產家の長男はやはり資產家の若旦那樣で納つて居る。それに引かへて、六ヶ年間首席で通した小作人の息は今でも鍬を振つて、飢餓と戰つて居、小學丈で止める事を惜しまれた才媛も家庭が貧ければ、やはり毎日辨當箱下げて近所の工場へ通つて居る。現在の經濟組織は、人間の腦力や體力を遙に超越して居るのである事に氣が附かないのか？それ程賢くない君達が、飽食暖衣して居られると云ふ事が、何より手近の判り易い例ではないか。

『然れども不慮の災難のために父祖傳來の財產を失ひ、一朝にして不幸の境遇に沈むもの又最初より赤貧洗ふが如く、學ぶに途なく、營むに資なく容易に世人の信用を得難きもの……これらは悲しむ可運命に飜弄せられて人力の如何ともすべからざるものなり。』賢愚强弱によつて自ら招く筈

の貧富禍福が、人力の之を如何ともすべからざるものとは少々可笑な事である。

幾十萬幾百萬の資産を持つて安楽に遊び暮して居るものは、「ありやあ賢いからだ」といひ、日夜營々として働いて尚生活に追はれる者は「ありやあ馬鹿だ」といふ。併し富者一朝不慮の災害によつて忽ち酷貧の底に投込まれた場合に昨日の賢者を忽ち馬鹿とは言へまい。又傑れた腦力は持ち乍らも赤貧のために立つ事の出來ないものも決して少くない。流石にこれらの事實は否定出來ないと見えて、苦心の揚句「是等は悲しむ可き運命に飜弄されて人力の之を如何ともすべからざるものだ。」と逃げたのである。無産の小作人勞働者を騙して特權階級を擁護しなければならない厄目を負ふてこんな詭辯迄捻り出さなければならない彼等こそ實に「悲しむ可き運命に飜弄せられて」居る氣の毒な人ゲンである。

「世に憎む可は身體强健にして勞働に堪へ得れども、怠惰にして職業に力めず、徒に慈善家の同情に依賴して、酒食の料を得んとするものなり。」

世に憎む可は身體强健にして怠惰なる者よりも、身體强健にして勞働に堪へ得るものを、自己の利害打算から多數失業者として、飢に泣かしめ或は無産の小作人勞働者の血と膏を搾つて放蕩遊惰に暮す地主資本家ではないか。

『若し之等の徒を救助せんか、却つて其依賴心を增長せしめ不良の慣習を作らしむる恐なきにあらず。』

小作人勞働者は言ふ。若し彼等地主資本家を此の儘に放置せんか、貪婪飽なき彼等の慾望を增長せしめ、慘忍暴虐なる振舞を逞うせしむるおそれ深し。と

『是等の人に向ひては金錢物品を與へんよりも、適當なる職業を授け、或は之を奬勵して獨立心を起さしむるを可とす』

呑氣な事を云つて居る。適當の職業所か、不適當でも着く可き職業のないために飢に泣いて居る失業者の如何に多いかを知らないらしい。

又現在の制度の下には失業者をなくすると云ふ事迄が不可能であると云ふ事が判らないと見える。

『更に又惡む可は往々窮困の人を救ふを名として、慈善家の資財を集め、獨り其の私腹を肥すものなり。是等は固より人面獸心の徒にして沙汰の限りといふべし。』

慈善を名として私腹を肥す奴が人面獸心なら權力と軍隊とを以て脅迫し、無産の小作人勞働者から血と膏を搾りとつて榮耀榮華に遊び暮す資本階級は一體人面何心といつたら好いのだ？

咄！人面虫心。

國定教科書中の××文書

自分の力量に自惚て居る虎は力の弱い人間が自分達を生取にする事の出來るのが不思議でならなかつた。それを見て蟻は嗤つた。そして「私どもだつて大ぜいでかゝればあなたに負けません」といつた。虎は大變に怒つて蟻を踏みつぶさうとした。處が蟻は虎の指のまたをくゞりぬけて仲間に合圖をしたので、數萬の蟻がまつ黑になつて出て來て目鼻口耳と所きらはず食ひついたので虎はうん〱苦しさうにうなつたが、どうする事も出來なく降參して了つた。といふのであるが、これは「××の力は偉大である。けれども大衆の力は更に偉大である。××はよし大衆の一分子たる個人々々に對しては之を制壓し得る能力はあるかも知れない。併し個人個人が團結して大衆となる時もはや××には之を制壓し得る力はない。大衆には團結といふ事によつて個人個人には全然持つて居ない或別個の威力が生れるのである。これこそ眞に××を遂行せしむる絶大なる力である」と訓へて居るのである。(尋常小學國語讀本卷六第八)

國定教科書の格言

かせぐに追ひつく貧乏なし

と言つたのは昔、資本主義社會の貧乏は大分進歩して、遂に勤勞を追越して居る。よつて、左の通り改めるのが至當だらう。

曰く『かせげば貧乏先まはり。』

正直の頭に神宿る。

今の社會では能ふ限り虚言をついて、欺瞞して居るものは勝利を得て居る。正直にして居たら何時も劣敗者で、貧苦の底に喘いて居なければならぬ。『正直の頭中には貧乏神が宿る』のだ

朝鮮の水平運動

―衡平運動の主義と其主旨書―

孫永極

朝鮮には三ッの階級が厳然と鼎立してゐた。それは、兩班階級（官僚）と常民階級と、白丁と言はれた奴隷階級とである。

兩班階級は政治的權力も經濟的地位も相當に占めてゐる階級であつて、常民階級は政治的權力は持たないが、經濟的地位は持つてゐる。奴隷階級になると政治的にも經濟的にも、何處も持たない赤裸々な、眞のプロレタリア階級である。

常民階級は經濟的地位を占てゐるから敎育もそれ相當に解放されてゐる。それ故に自分の奮鬪努力の如何に依つて、兩班階級に進む可能性があるが、何も持たない奴隷階級には敎育を受ける機會も方法もなかつたので奴隷から以上の地位に進むてふことは絶對に不可能であつた。

兩班のみでなく、常民も亦白丁と云へば人でない動物と見て來たのであつて、その虐殺的待遇と云へば云ふに限りのない位である。如斯き慘憺極る苦痛と壓迫の不自由に祖父から孫、何代も何代も虐げられた朝鮮の白丁は何しろ自由と苦痛でない社會を憧憬したに違ひなかつただらう。

日本に起つた水平社運動の激浪は、忽ちに全國に大波動を起した。この餘波はあらゆる方面に、强い刺戟を及ぼしたが、最も深き力を與えられたものは、朝鮮の白丁であつた。彼等は遂に、暗黒から光明へ、壓迫から自由へと進むべく蹶起した。

本年初春より、姜相高、申鉉壽、千錫水の三氏等が、晋州に現はれて時に相談會を開き、白丁村落を宣傳して同志を糾合した。四月二十日には、晋州大安沂に同志が集つて運動創始の具體的相談を遂げ、翌二十五日には、臨時議長に姜相高氏を推し議事を進める。議長の挨拶、役員選擧、規則を通過し、敎育機關設置、會館設置、各地に出張して衡平社主旨を宣傳することを決議し、午後五時散會した。參會者八十餘名。

衡平社今後の活躍は、內地の水平社運動と呼應して、目覺ましい發展を遂げるであらふ。

現在の委員は、申鉉壽、千錫水、李學贊その他十六名。

衡平社主旨書

公平は社會の根本で、愛情は人類の本領である。それが故我等は階級を打破し、侮辱的稱號を廢止し敎育を奬勵し以て、我等も本當に人間として生んことを期するのが本社の主旨だ。今我が朝鮮の白丁は如何なる地位と如何なる壓迫の下とにゐたか？過去を回想すれば終日痛哭の血涙を禁ずることが出來ない。

斯様な地位と條件問題等を提起する餘暇もなく目前の壓迫を恐れ自由を絶叫するのが我等の實情であつて、此の問題を先決するのが我等の急務であることは的確である。

卑しくして貧しく、劣弱にして賤視せられ、自ら屈して來た者は誰ぞ、噫、それは我等白丁ではなかつたか。

社會は我等に如何なる態度をとつたか、所謂智識階級と兩班階級は我等に對して、壓迫と蔑視と侮辱だけ與へて呉れた。

我等は決して侮辱的虐待を受けるものではない。職業に貴賤なし、況して獣類を屠殺する者は我等のみでない。

本社は時代と社會の實狀に應じて創立するのみでなく、甲午年六月の勅令に依つて、我等も既に朝鮮民族の同格に加えられてゐる。

愛情を以つて、相互扶助し、生活の安定を計り、共同の存榮を期するが爲め、こゝに四十四萬の同階級を總合し、本社の目的と主旨とを徹底せしめんとするのである。

水平社の運動は、直接の經濟運動ではない。多年受けて來た輕侮淩辱を打ち破らんとするものであつて、精神的劣弱な脫せんとする要求が主眼である。そこで賃銀增加と云ふが如き、當面の經濟的利益に依つて止まるものでない。それだけ此の運動は革命性が濃厚である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本主義の二潮流

稲村隆一

（一）

無限に原料を有する殖民地を獲得したる英國等の資本主義がその起源より今日に至るまで自由主義的であるのは不思議ではない。彼等英國の資本家は軍事行動によつて他國の領土を侵略するよりも、活潑なる個人的活動によつて新陸地を發見し新原料地を獲得した。

彼等が殖民地の原料を得、海外市場を獲得することに對してドイツの如く、フランスの如くも貴族階級や、陸軍の力による必要はなかつた。彼等は自由貿易主義による巧妙なる商業的征服であつた。印度の征服も南阿の占領もそうである。

英國のみならず、未開地と原料地と殖民地を有する資本主義國家は、常に自由主義を主張し（從て自由貿易主義）、陸軍主義を排する。又この資本主義は政治上には常に普通選擧とデモクラシーを唱導する。

所が殖民地と原料地の不足なる資本主義國家はどうであるか。彼等の資本家階級は英國の如く自由な個人的活動が不可能である。彼等が海外市場を得、原料地を獲得するためには最初より陸軍の領土侵略、即ち國家と舊貴族階級の力による外はない。從つて彼等は官僚主義と協調する。又經濟上には極端なる個々資本家の自由競爭を不可とし保護貿易主義を取り政治上には官僚主義と專制主義の形態を必要とする。日本及びドイツの資本主義はその例である。

故に資本主義の發達形態は各國皆同一ではなく、その政治組織も又斷じて同一ではない。

（二）

この事は、フランスの資本主義の發達狀態を歷史的に觀察すれば最も簡單に說明し得る。

或人は私に云つた。各國の資本主義の發達形態は殆んど同一である。又資本主義は青年期、壯年期に於て一樣にデモクラシーを要求するものである。軍國主義を必要としたる當時の佛國の資本主義が、何が故に自由主義の政治革命を起したのであるかと。

然し乍らフランスの革命は、英國の資本階級の產業革命の如く斷じてブルジョアが政權獲得を目標としたのではない。それは封建貴族の壓制搾取に對する市民及び農民の直接の暴動である。後にブルジョアが之を利用したのである。當時フランスのブルジョア階級は必ずしも革命を要求してゐなかつた。卽ち封建政府の力に賴つて發達しようとしてゐた。ルイ十四世はコルベールを大藏大臣に拔擢して大いに資本主義政策を遂行した。コルベールは國有の大工場を設立して大工業の發達を圖つた。彼は實にフランスに於ける資本主義の先驅者である。

當時フランスの資本家は封建貴族の保護の下に發達するを利益とした。（日本の明治維新は正に之である。日本の大資本家は封建貴族の保護下に發達した。）

然るにコルベール死してよりルイ十四世及び他の封建貴族は又元の封建的精神に戾り、工業に對して極端の壓迫をなしたるため、產業は頓に衰退した。各市民は政府に抗議書を續々提出した。ナント勅令の廢止により產業益々衰へ政府は財源の道を只民衆農民に對する租稅のみに求めた。夫が爲に革命が起つた。

故にフランスの革命はブルジョアジーが政治的自由主義のために起したのではない。

（三）

かく觀察するならば資本主義はその國狀によつて、壯年期青年期に於て必ずしも自由主義を辿るものではない。又各國の資本主義とも同樣の發達形態を辿るものでもなく、又同國家の資本家階級は全部同一の徑路を辿るものでない。（從つて社會主義運動、勞働運動も同一のキャテゴリーに當嵌る事が出來ない。）

即ち世界の資本主義には、その國の社會的特質によつて官僚主義と陸軍主義と永久に結合して行くものと、陸軍主義と官僚

主義と軍國的侵略主義とに反對して自由主義と商業的征服主義を標榜して行くものと二つに分類出來る。前者は國家主義を主張し、後者は自由貿易主義、資本家の國際主義、平和主義、世界主義を主張する。從つてこの二つの資本主義は國內的、或は國際的に、常に相抗爭する。

（四）

然らば日本の資本主義は如何なる形を持つか。明治維新以來日本の藩閥はコルベール式政策によつて資本主義を發達せしめた。（產業の國營等）

日本のブルジョアジーも自由獨立の精神なく、藩閥の保護の下に利益を獲得しようとした。之は日本の資本主義が殖民地と未開地と、原料地を有せざる爲舊支配階級の特權と軍閥の陸軍主義とに結びつく必要があつた。

第一に彼等は支那、朝鮮の市場を軍國主義によつて獲得してもらうことであつた。

故に日本に於ける大資本家の多くは、政商である。政府の國庫より大部の事業費の補助を受けてゐるものである。彼等政商は政府事業の請負業者である。日本の鐵工業、鐵道等の國有なる所以は、日本の大資本家にとつては之等を政府のものとしてそれの請負業、政商となる方が利益である。就中日本の鐵工業は軍國主義の力によつて發達したるものである。

かゝる日本の產業發展が日本に藩閥の政治勢力を殘存せしめ又日本の大ブルジョアが擧つて軍國主義を守護した所以である。又、政友會等の大ブルジョア政黨が、藩閥と相抗爭するが如く見えて、常に之と妥協するのもかゝる所以からである。

私は斷言出來る。日本の大ブルジョアは石炭と鐵の獲得、海外市場の奪取のため、永久に軍國主義と軍閥の力を必要とするが故に、彼等と政治上離反するものではない。あつた所で一時的である。日本の資本家が支那及びシベリヤに對する政策が終始一貫軍國主義であるのも當然であり、又それ以外、彼等は支那に發展出來ない。

日本の大ブルジョアは、永久に官僚的軍國資本主義を必要とする。日本のシベリア出兵、滿州に對する政策皆然りである。

之に對してアメリカの商業的資本主義は早くよりシベリアより撤兵し、個々の資本家がシベリア、ロシアの利權を獲得し、（シンクレア會社樺太石油の如き）支那に對しては、未だ軍事行動に一度も出ですして多大の利權を獲得してゐる。

（五）

然らば日本のブルジョアジーは、すべて官僚的軍國的資本主義であるかと云ふに決して左樣ではない。純粹なるブルジョア自由主義を奉じ、軍閥と官僚に反抗する資本家階級がある。然もそれは經濟上、政治上、將來日本の重要地位を占めるものである。即ちそれは紡績業の資本家である。小ブルジョアよりも革新俱樂部よりも先に、もつと積極的に軍備の縮小に贊成したのも彼等であつた。（元來小ブルジョアの政綱程あてにならぬものはない。彼等は經濟上の根據なき故常に變る、彼等の自由主義は思想的に來るものでない。彼等は政權の滿足を感じたる時いつでも自由主義を放棄する。）

何故なれば彼等紡績業者は經濟上純粹なる自由主義に立つものである。紡績の原料の大部分はアメリカ等から輸入する。彼等の產業は軍事行動によらない又彼等は政府の補助を少しも受けてゐない。彼等は政商ではない。實に彼等は近代的資本主義の模範であつて、軍事行動による侵略よりも自由貿易主義の上に立脚するものである。彼等は自由貿易によつて商業的發展によつて、その原料を輸入し製造品を賣り出す。彼等は軍閥と現代の政黨によつて利益を受けないが故に、彼等と反對して今や商工黨を組織しつゝある。彼等は政治の資本に對する干涉を排斥するが故に、完全なるブルジョアデモクラシーを要求する。この勢力は普選の實現と共に一勢力となり、大ブルジョア政黨に反抗するものである。

そしてかゝる資本主義の二潮流は國內的にも、國際的にも常に爭鬪する。

プロレタリアの革命戰術もかゝる現象を考察して、決定しなければならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級政治運動の研究

一、プロレタリア政治運動は都會と農村との何れに於て先づ發展するか

二、プロレタリア政治運動の全面中議會行動はどの程度までの重要さを占むるか。

問題の旨意

一體、プロレタリアの運動は都市勞働者が先驅を務める事が原則ですが日本での政治運動に於ては特殊の事情もありて、或は原則通り行かないかも知れないと思ひます。

それから、議會行動が現在考へられて居るプロレタリア政治運動の全部でも本流でもない事は勿論ですが、一體どの程度までの部分を占めるべきものでせうか。又占めしむるべきものでせうか。（往復葉書の質問）

□ 赤松克麿氏

農村に於ては貧農階級が目下着々政治運動を進展させて居る。しかも夫れは有利に進展しつゝある。村會に於て味を占めた彼等は必ず來るべき縣會に對する運動に熱中するに相異ない。此の調子でせり上つて來れば、普通選擧施行の曉には彼等が議會行動に積極的態度を取ることは容易に推察することが出來る。併し注意すべきことは、彼等の政治運動は社會民主主義的色彩を持つて居ることである

だから、プロレタリア政治運動は都會よりも農村に先に發展するが、それは共産主義的色彩の乏しいものであらう。都會の無産階級は農村の貧農階級のやうに地方政治に於て味を占める可能性が少いから、また都會にはサンヂカリストの宣傳が相當に利いて居るから、プロレタリア政治運動は農村よりも都會にはおくれて發展するが、併し夫れは共産主義的色彩を農村のそれよりは多く持つたものであることは疑ない。農村の社會民主々義的政治運動を共産主義的に引つ張つて行くためには、正面から棄權論を振り廻して反對するやうな遣り方は絶對に禁物である。そうするためには、どうしても共産主義者が農村の政治運動に飛び込んで行つて、適宜に宣傳し、指導し、都會勞働者の政治運動と適當に提携協力する道を開いて行かねばならぬ。私は近時農民運動の實情を見たり聞いたりしていろ〳〵考へさせられて居るが、農村の運動と都會の運動とを共同戰線に立たせるには、非常にデリゲートな用意がいると思ふ。若し都會の勞働運動が主觀的立場に固着して、議會無視、選擧權放棄などの主張を押し通すならば、農村は都會の無産階級運動と離反して、純然たる社會民主黨の地盤になつてしまふと思ふ。私は農村の貧農階級と都會の勞働運動との共同戰線を張る政策上から見て、政黨の必要を痛感し、共産主義的な議會行動を主張するものである。私が議會利用論を主張する論據は他に重大なものがいくつもあるが、如上の農村問題も其の有力なる一つであることを斷言する。

プロレタリア政治運動の全面の中、議會行動はどの程度までの重要さを占めるかといふことは、今の處嚴密には私には豫想がつかない。それは組織された政黨の綱領や構成分子と關係を持つ問題であるからである。併し兎に角議會行動が相當に有力なる重要さを占めることだけは明かである。

□ 木村愛雄氏

一、プロレタリア政治運動は初期にをいて都會勞働者が先に發展し第二期に農村勞働者第三期に至たつて、都會のプロレタリアは非常なる勢力を持つて×××に走るであらう。

二、プロレタリア政治運動中、議會行動はプロレタリアが××運動を成すに都合よく利用出來得るだけ利用し、利用出來なくなれば一擲すればいゝ。

□ 羽生三七氏

一、純粹な意味に於けるプロレタリアの政治運動は先づ都市勞働階級に發展するのが原則でせうし、亦事實發展する傾向をあらはしてゐます。

農村に於ける運動は勢、小ブルジョア階級の運動と關連して行はれ勝ちになりはしないかと思はれます。それで純粹な革命的な意味に於ける農村無産階級の運動が都市勞働階級の政治運動より急速に發展することは考へられません。然しながら、近來急激に農民運動の起りつゝある以上、我々の豫想を裏切ることは無いとも斷定出來ません。

二、プロレタリア政治運動の全面中議會行動の占める地位即無産階級の政黨が議會に占める地位は差して信頼するに足らぬものであり、唯内部に於て議會を××する程度のものでせう。我々は日本に於けるプロレタリアの政黨が、議會に於て大なる勢力を得ることを可能と考へ得ないのです。

□ 島義雄氏

一、プロレタリア政治運動とは明確に云へないが、農村青年の熱中し易いのは政治問題（この鳥取地方は著しい。）

一、議會行動の程度とは僕によくのみこ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めない。それは單にトリックのやうに思はれる。

□ 小助川凱氏

一般農民は比較的都會勞働者より未だ尙ほ政治運動さへ云へばブルジョアーの政治運動にさへもかなり幻惑され又之を尊大視する傾向のある事はいなむ事の出來ぬ事實でありますプロレタリアの政治運動も先農村から發展する樣に考へられますが、眞の赤熱せる政治運動は階級意識の目醒めた都會及農村の勞働者がシッカリ手を握つて立つた時期から初まる事と思ひます、そうした時に於ける議會行動はたしかにブルジョアーの城砦に對する一つの巨砲の價値があろうと思ひますしかしそれ迄に組織され訓練されるにはかなりの危險が供ふ事を考へなければならぬさ思ひます。

□ 坂本嚴氏

日本の如く、工業さ農業さの發達程度に多大の差等があつて資本主義的經濟狀態の未だ全國的に爛熟せざる國にあつては、政治革命の爲め農村の力は不可缺のものである。故にプロレタリア政治運動は農村に於て先づ發展すべきもの、又發展せしむべきものさ思ひます。

□ 大川周明氏

一、不肖には豫言出來ませぬ。

二、議會政治は、もさ〳〵幾多の缺陷を孕んで居たのです。たゞ當初に於て旺盛なる精神が其の缺陷を補つて、兎にも角にも有效な役目を勤めて來た。然るに今日は其の精神が地を拂つたから、誰が議員になつても駄目さ思ひます。プロレタリア政治運動は、議會行動を眼中に置いてならぬさ確信します。

□ 北光之介氏

一、何と云つても純粹なプロレタリア政治運動は都市勞働階級によつて進展されるさ思ひます。一般的な政治運動は殊に中間的な政治運動は農村の間に既に起らんさし或は起りつゝあります。それにシゲキされた都會の勞働階級は永い間に純化された思想からハッキリさした階級意識の上に立つて所謂純粹なプロレタリア政治運動を起すさ思ひます。

二、合法的な政黨が作られた場合はプロレタリアがその核心さなつてこれをコントロールすることが出來れば議會行動の名の下に敵の政權を動搖させればなりません。然しそれは單にプロレタリア政治運動の一部でしかないでせう。

□ 森英吉氏

政治運動は改良主義的運動さ根本改造を目的とするものと二派ありませう。而して何れも端を都會より發す事は事實です然し其内農村は何さ申しても（格別の地方を除き）漸進主義改良主義運動が發展致しませう而して都會の方は根本改造革命的運動が發展致しませう然し農村の方も都會の方さ同じく根本改造を目的さする革命的運動を發展させる樣に務めなければ成りません。

議會行動は改良主義者の理想かは知りません。否改良運動は議會政策で漸々さ行けるか存じませんが、無産階級の理想さして居る社會を創造する爲めには、我々が正しき聲を、民衆に聽かしむる宣傳機關たる位の役目を務めませう。現在の議會は普通選擧に成りましても、第一段の役目を務める丈けでせう。（第一段宣傳時代）（第二段直接行動時代）（第三段反動追討時代）（第四段建設時代）

□ 藤井眞澄氏

一、農村のプロが本當に自覺しない限りプロの政治運動は永久に建設的成功を示さない。表面の發展は都會のプロにあるであらう然し實質的の眞の力は矢張り農村のプロにあるさ思ふ。日本人の生活心理の基調は、やはり農業立國にある。歐米の商工業的生活心理には日本人はまだなか〳〵なれさうもない。急になれないのは生理的（物理的）必然であつて、なつてゐるやうに見えるのは、單に表面だけだ。この表面だけの心理に浮かされた運動には底力がない、本當の成功を示すわけがない。×××のは何うしても農村からだ。

二、議會行動をプロ政治運動の全部さする事は、何も遠慮しなくさもいゝではないか！遠慮するところに、空想があり迷信があり、現實努力の逃避がありはせぬか？

□ 田川大吉郎氏

一、私は日本の政治運動の大部分は農村から來る、特に小作人仲間から起つて來ると見て居る者であります。

二、どの程度さいふことは測り難い問題さ思ひますが議會行動を、やゝもすれば冷視せらるゝ方の少くない割合に、議會行動の部分が多からうさ思ふてゐます

□ 小牧近江氏

一、農村の方にもう少し力を入れなければならないさ思ふ。九月も切迫して來たことだから。

二、共産黨が公然に出來ないまでも、そうしたもののプログラムがあつてこそ議會行動の重要さが確在される個々の議會行動には油斷がならない。

□ 宮崎龍介氏

一、形勢の推移は仲々豫測を許しませんが、革命的政治行動は多く都會に發展し、立憲的議會行動は農村に流行する傾向を持つてゐるかさ思はれます。

二、資本國家が戰爭さ云ふ如き特別な事情に置かれない限りプロレタリアの政治的戰鬪は直に議會に於て開かれねばなりますまい。平和時に於ては議會こそ最も戰端を開きやすい場所であり、非平和時にあつても革命的政治行程は議會に何等かの關聯をもつものたることはロシヤ革命の歷史に徵じても明かでせう。議會も決して輕視するわけには行きません。

□ 伊井敬氏

農村で政治運動が先づ發展する傾向はたしかに見へますが、それが果たして吾々が期待するプロレタリア政治運動であるか否かは、甚だ疑問ださ思ひます。最初はペチブルジョア的のものではないかさ案じられます。ですから、それを都市の純化されたプロレタリア政治運動を以て調節して行かねばなるまいさ思ひます

二、議會行動は恐らく日本のプロレタリア政治運動の上では極小さな部分を占め

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るに止まるだらうと思はれます。尤も之れは、將來普選の施かれた場合、吾々の政治的能力如何によつて、どうにでもなる問題ですが、農村の政治熱を寧ておいたら勿論折角の民衆運動も爭ふ議會運動に陷つてしまうでしよう。

□ 滿川龜太郎氏

一、兩々相俟つて發展するでせう。

二、刺身のツマ位の役には立ちませう。

□ 山崎今朝彌氏

一、今迄は都會に於て、これからは當分農村に於て、最後は矢張り都會に戻る。

二、僕の解する前項の「プロレタリア政治運動」なら議會行動は片隅程度の重要さを占むる。

□ 金內良輔氏

一、日本の無產者の政治運動は天然的乃至人爲的饑饉の勃發するに於ては、農村無產者の政治運動の旋風的突進を招來するは論を俟たぬ。乍併單に集團的結合能力如何の問題より觀るも、都市無產者の政治運動に先づ擡頭の可能性ありと斷ずるを妥當と信ずる。要するに將來の問題はモーメンタム如何の問題である。多分に發展すべき要素を抱藏しながら、日本の都市無產者の政治運動は、坦々たる大道を驀進し得ずに、徒に道草を喰うて來た。それは普選運動のブローカーと暗愚にして潔癖自ら居る、經濟運動と政治運動の順逆を蟬噪せる思想家或は運動家の跳梁に基く。

二、議會運動も全然無用ではないが、それだけでは勿論駄目である。

普選後の議會を無產者が支配し得れば問題はない。そんな呑氣な可能性がないとあれば、問題は別に考へればならぬ。

議會運動に依らずに、日本の政治乃至社會組織の根本的革命を、最迅速、最小犠牲を以て實現し得れば、これに越した結構なことはない。私は其の純日本的可能を信ずる者であるが、等しくモーメンタム如何の問題であり。而して第一義には其は我々が直面して居ることである。モーメンタムは天然的乃至人爲的饑饉であり、戰爭（英米戰爭、日英、日米戰爭）であり、朝鮮問題であり、水平運動である。抽象概念の思想的遊戲乃至感傷にこだわらぬことだ。

□ 橋浦泰雄氏

一、矢張り都會に先づ發展する事と思ひます。然し日本の農村はかなり發達してゐるのですから、さう時間的に大した差はあるまいと思つてゐます。

二、現在の社會制度と根本原理を全然異にする私は現在の制度下に生れた議會に於て何等行動するの必要を認めません。それによつて我々の目的が達せられない事を信ずるからです。然したゞ一つ認めてい、場合があります。それは彼等の議會を××する目的の爲めに彼等の中へ入つて行く時のみです。

□ 桂信三氏

一、理解の程度と云ふ事が基因をなしてその發展の如何をなすものと思ひます現在の日本では、都市勞働者特に組合員の多數には、まだサンヂカリズムの思想が殘つてゐますし農村勞働者の多數には從來の政治運動、ブルジョア政治運動、が殘つてゐます、この二つの者が統一されたるブルジョアの城塞に向ふにはどうするかと申しますと、是非共プロレタリアの政黨組織を出現せしめて組合運動と共に充分に活動せしめなければならないと思ひます。

□ 木部正行氏

一、原則からのみでなく、現下の情勢から推しても、當然都市プロレタリアが先驅をつとめるであらうと思ひます。しかし、其背後にあつて、農村プロレタリアの欲求が如何なる場合にも都市プロレタリアの行動を條件づけると思ひます。要は、都市プロレタリアの水準まで農村プロレタリアを如何にして引き上げるかと云ふことです。都會が農村のためにする一步の讓步は次の二步三步の前進を豫測してくれなければなりません。

二、吾々の運動が、ブルジョアの議會に參與することに依つて、現社會をよりよく改良して行かうとするものでなく、根本より××した後に新しきものを建設しやうとするものである以上、議會行動の價値は全運動中の一枝葉としてなら、認められることもあるだらうし、或は全然認められないかも知れません。たゞ、政黨組織の頭初に於てならば、議會に議員を送るのと送らないのとは、組織さるべき政黨の色彩を異らせると思ひます。

□ 津田光造氏

一、現實の社會が資本主義中央集權の制度で隨つて一切の政治運動が都會を中心として發展して居るのですから、プロレタリアの政治運動でもそれが同じ社會の組織の中に胚胎すべきものである以上日本でも矢張り先づ都會を中心として發展するものと思ひます。

二、一體、プロレタリアの政治運動とは勿論、政治をプロレタリアのものにする運動を意味すると思ふ。さうしたならば議會行動はプロレタリアのものにする、即議會占領と云ふ事が一つの運動として考へられる。が、それではプロレタリアの意志を代表する勞働組合の機關が先づ備はらなければ、先づ動きは取れないと見なければならない。

□ 井伏太郎氏

一、關西の都會で先づ發展するであらうと思ひます。

二、一小部分だと考へます。

□ 中島壽馬氏

議會行動の第一步として勞働黨なり社會黨なり組織さるれば、ブルジョア政治の搾取を追っ拂ふ爲めに、勢い選擧場裡に飛び込まねばならぬが、形勢は面白からぬに決つて居るから、代議士を送る爲めに費す力を轉用して散兵線を敷く事にする。さうして社會黨勞働黨の大旗を振りかざして縱橫に驅け廻り、相率ゐて社會黨勞働黨以外の候補者の擇ぶに足らざる意志の表示として自發的に棄權せしむる運動をする。その爲に定期間、綱領として全國棄權同盟結成の一項を掲げる。議會行動の程度といへば、差當つて先づ是れ位のものではあるまい歟。

□ 島中雄三氏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

一、プロレタリア政治運動が、都市に於てより先づ農村に於て大に起らんとする傾向あり、されど眞の革命的政治運動は飽くまで都市勞働者を中心とすべく、また中心とせざるべからず、然らざるかぎり農村政治運動はせい〳〵議會運動を出でざるべし。

二、革命的價値に於ては殆どゼロ。而も革命行程に於ける歴史的使命を重視するものにとりては、議會運動は殆どその全面的重要さを占むる場合なしとせず

□ 淺沼稻次郎氏

一、無產階級の政治運動は日本に於ても原則通り都市勞働者が先頭をつとめて居る、現在都市勞働者は經濟行動より政權獲得に向つて進みつゝある、農村に亦政治熱が起りつゝあるが其目標は都市勞働者それの如きものなり。

二、議會は鬪爭の一小部分であるが議會行動を認むる以上は其處でも出來る限り力をつくす可きと思ふ。

□ 鈴木楯夫氏

一、日本は特殊の事情があるとも思へぬから、矢張り、都會からだと思ふ。希望をいへば比較的生活の餘裕を持つ農村を都會に平行せしめたい。

二、政權が完全にプロ階級の手に歸するまで運動する事は經濟上の大變革が外國の事情に餘儀なくせられた日本にも起るとせば政治運動が何の程度まで進んで居つても問題になるまい。

□ 藤森成吉氏

一、やつぱり、日本でも都會に於てまづ發展するでせう、たゞしロシアなぞとちがつて、日本は土地もずつと狹し、又一般的な教育も普及してゐますから、よつぽど都會に近い步調で進むでせう、出來るなら同步調で、然も地方的な一種勇健な力を充分役立たせるやうすべきです。

二、僕自身の立場に於ては、ほとんど意味を持ちません。

□ 堺利彥氏

一、農村に於いて先づ發展するかも知れない。然しそれはプロレタリアの政治運動の眞精神から遠ざかつたものになりさうな氣がする。そこが我々の大いに考へねばならぬ所だと思ふ。

二、議會行動の重要の程度は云ひ難い。然し其の時々の情勢に從つて、我々の本體が利益と認める所のものを行ふまでだと思ふ。

□ 長谷川光太郎氏

一、都會の勞働者が、總べての運動の先驅を爲す事は云ふまでもありませんが、根強い運動はどうしても生一本な純朴な人の手に依らねばなりません。種々な事情はありませうが線香花火のやうに消え易い都會勞働の運動に引替へて農村の小作運動か逐年熾烈になつて來た事實に鑑みるもプロレタリアの政治運動は當然農村に於て發展しなければならぬでせう。從つて實際運動の鬪士を以て任ずる人々は先づ農村へ農村へと入つて行かなければならぬと思ひます。

二、プロレタリアの運動の全面中議會行動がドノ程度まで重要だかハツキリ解りませんが、私としてはあく迄も議會を背景として進みたいと思ひます。

□ 安部磯雄氏

一、我國では先づ農村に於てより多く發展しさうに考へられます。

一、私は議會行動がプロレタリアの目的を達する正當の方法であると考へて居るばかりでなく勞働階級の訓練の上にも必要だと思ひますから出來得るだけ其方面を高調したいのです。

□ 岡陽之助氏

一、都會の勞働組合が、排他的な、組合萬能主義の殼を何時までも破り得ないとすれば、先づ私は、我國のプロレタリアの政治運動は農村より發展するものと斷定致します。

農村の先驅者は地主と對抗すべく小作組合を組織してゐるが、それは中核でこそあれ、決して一般農民から孤立した存在ではありません。イザといへば一村總立で地主に迫るのであります。更に進めば一郡一束になり、それこそ蓆旗竹槍で地主を支持する郡役所縣廳へ押しかけるのであります。これが、農民運動の形態です。

農民の生活は、日給の賃金ではなく、年に一度の收入に依つて支へられてゐます。而も、豐穰凶歉の農事そのものが、農民の心理に、根強い耐久力となつて表はれてゐます。加之、地主の土藏には搾取の結晶なる米俵が、高く積まれてゐることを知つてゐます。されば一度び小作騷擾でも、眞個に大げさになつた日には、持久戰を苦とせず、いよ〳〵擴大して、いよ〳〵××化する所の可能性が充分あります。

況や我國の小作人の覺醒は日を追ふて著しく、今日、全國の小作組合員は優に百萬を以つて數ふるに至てゐるのです。

二、プロレタリアの政治運動の全面の眼目は社會××の激成に在ると思ひます。無事平穩なる局面を如何にして有効に打開すべきかといふ事を念頭に置かればなりです。それには、私共の前に轉じ來る時局に對して、炬の如き凝視を懈らぬ事です。かうした意味で、私は議會利用の議會行動を極めて重要な事に考へてゐます。

何と云つても、議會は世の注目の的であります。從つて、これ位、宣傳の利く場所はない。普選實施の曉は、宜しく人選を嚴にして、勇敢に院内に乘り込み、徹底的に、ブルジョアのカラクリをあばくべきです、彼の棄權説の如きは、共に談ずるに足らぬ學者論です。素より齒牙にかける必要はありません。

議會に於ける我々の行動は、ブルジョア、プロレタリア兩階級の利害の背離を公表するものであります。或はプロレタリアの意志の蹂躪さるゝ事實を、公演することであります。即ち、議會に對する失望幻滅を全無產民衆の間に涌起せしむる事であります。眞の民衆の議會否認は當に、これに依つて生るべきです。而して私は、革命的風雲の一端をこゝに看取せんとする者であります。

されば私は、議會行動が、限られた期間においてではあるが、それは確かに、プロレタリアの政治運動に激成の火藥を投ずるものとして、運動中、極めて重要

なる部分を占むるものと考へて居ります

□ 遠藤友四郎氏

政治運動が都會と農村との孰れに於いて先づ發展すべきかは全く別問題であつて、私の觀る處では、目下都會には政治運動に無智な指導者が跋扈して居るのに反して農村には政治運動に目覺めた人々が必然的に多いのであるから、日本では屹度その農村から發展し行くのではなからうかと思ふ。

議會行動は政治運動の主要部分を占める。議會行動の心が政治運動では無くて內閣行動にも又は街頭行動にも政治運動は存するが、中央にせよ地方にせよ、國會、府縣會、郡會、市町村會に於けるプロレタリア代表者等の運動は、プロレタリア革命に取つて、その主要部分を占めるものである。

但しこの議會內に於ける政治運動のみで、プロレタリア革命が成し遂げられやう筈は無い。政治運動とも經濟運動とも斷定し得ない議會外の種々なる社會運動革命運動、直接及び間接の行動に助けられて、無產階級は初めてその目的を遂成し得るのである。

□ 櫛田民藏氏

一、やはり原則通り行くだらうと存じます。

二、決定的でなくても重要だらうと存じます

□ 前田河廣一郎氏

一體に農村民は、自然の慰撫に生き續けて、傳統や宗教や教育のゆるい緩和にその日その日を送つてゐるに所爲からの、思想的に、又、生活的に、工業都市の勞働者ほど、革命的な氣持に多角的な接觸する機會を持たない。これは誰しも地方へ宣傳に行つた人の感ずることである。こんなわけから自分は、漸時工業化しつゝある日本の產業界に、先づプロレタリアの××運動が起るとすれば、都市中心工業中心、工場勞働者中心として、地方地方へ次第に波及する傾向をもつたものと思はれる。但し、突發的な事故の起つた場合は、例へば米騷動の如き、別である。××といふ一大因子を忘れてはならないが、これこそ特殊事情の範疇に屬すべきほど、獨逸主義で固めてあるから、當分假想の敵國が軍人によつて誇張されてゐる限り、議會によつて離し立られてゐる限り、運動とは緣が遠い。しかも、軍隊を構成するプロレタリアの大部分は皆農村の出であるのだ。

二、共產主義とプロレタリアの締結によつて生ずる××に、代議政體の參與すべき餘地はあまり無いやうに思はれる。若しあるとすれば、無產階級の議會占領位の結果の問題に過ぎなからう。政友、憲政、革新、無所屬の諸政黨が、どんなに赤化した處が、せいぜいロシア承認位ひの地位まで引ずり下ろされるのが關の山だろう。プロレタリアの××は、議會行動を無視して、第三インタアナショナルとの堅い握手から始めて擡頭する。第二、第二半インタアナショナル思想の即刻引退を迫るべき時が、今來た。

□ 北澤新次郎氏

一、確然たる豫測は出來兼れますが、近時の農村の實情を見ますると農村の方が政治運動が急激に進展しつゝあるのではないかと思はれますが。

二、議會運動は御說の如く根本的の効果はありません。しかし、或點迄進展すべき必然性を持つてゐる樣に思はれます。殊に商工黨の如きもの丶出現は他階級の黨派の促進をやらずにはすみますまい。

□ 小川未明氏

一、普選になつたら、勞働者の多い都會では、容易にプロレタリアの運動は發展されると考へられます農村においては、小作人の團結は却つて容易ではないけれど、文化の相違上今日では尙ほ都會の運動に刺戟され、學ばなければならぬと思ひます。

二、表面的にブルジョアと對立することによつて、まち〳〵階級意識を民衆に覺醒すべく宣傳になる位のものだと思ひます。

□ 山川靜江氏

先農村に起るでせうが、それは普選程度に墮落したもので、眞實のプロレタリア政治運動はやはり都會に萌芽すると思ひます。然る後農村に波及して第二期の(農村)政治運動を起し初めて根強い運動が實現されるでせう。然し資本國家が中央集權的である以上運動は必然的に都市を中心として行はれると思ひます。

議會の××を目標としてのみ許さる可に幾分の効果あるものでせう。勿論政治運動全面中の、一小部分でしかありません。

□ 渡邊太郎氏

確信ある解答を提出することは出來ぬけれど、たとひ、日本に於ても、プロレタリアの政治運動が農村にまづ起るべき道理はない。農村に於ける政治運動は、小ブルジョアの政治運動であり、その旗印は普選である。されば、農民の政治的活動期に、小作組合が勞働組合と握手して居り、且つ農村の青年團體が、共產主義的精神を以て指導されてゐなければ都會の無產階級が、××政權を保持することが困難であると思ふ。たゞ、ブルジョア政府によつて普選の實施されるまへに、農民の政治的運動と殆んど同時期に、プロレタリアが政權を獲得してゐるならば、問題はやゝ其の性質を異にする。これらの前提條件が備はらずして議會行動をなさんとするならば、それは正しくブルジョアに利用されることであり無產階級の革命は、ブルジョアと小ブルジョアとプロレタリアの三角關係によつて其の時期を長からしめるであらう。ただ注意すべきは、國際の形勢と、日本の官僚軍閥のブルジョアに同化されてゐる程度とである。議會行動をなさんとする場合、我等は、日本政界の實勢に對する唯物史觀的觀察を誤つてはならぬ。

□ 久保田涼氏

一、先驅は都市かも知れないが、底力の強いのは農村からでせう。

二、狼の遠吠位。

□ 丹悅太氏

一、プロの政治運動は不必要と認めます

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、行る者はやらせませう。地方によつて多少の例外もありませうが、概して都會であると思ひます。
二、議會は、特權階級の最も巧妙なる民衆欺瞞の機關であると認めますから、之を肯定しての行動は、プロとしては自殺的行爲であると思ひます。否定意志の表示（過激法案の如きに對しても）は必要と認めます。

□ 新居格氏

一、日本でのプロレタリアの政治運動の具體的進行は地方が却つて先きではなからうかと思ひます。
二、プロレタリアの議會行動については、僕は目下考慮中ですが、現在の狀態では普選になつても我々の間から幾人出られるかを疑ふのです。出た所で社會主義的な、今迄議會できかれなかつた叫びをブルジョア政治家の集團に投げつけて驚愕させる以上どれ丈効果があるだらうか。それだけでも頗るいゝことではあるが。

□ 栗原精氏

都會のプロレタリアよりも、農村のプロレタリアの方が政治の影響を蒙る事直接にして且甚だ重要性を持つて居ります。而しながら理由は書きませんが日本のプロレタリアの政治運動も都會のプロレタリアが先驅を務めるであらうと思はれる。
プロレタリアの政治運動中議會行動は總てを敵に廻るの方法であつて權謀であるからプロレタリア政治運動中の一部であるのは申すまでもないが現在農民を目安に入れて呼個人の要求としては、議會行動も可成重要性を持つ全く齒痒い概かしい農民心理よ。

□ 片桐市藏氏

御質問のプロレタリアーの政治運動問題については恥しながらまだ考へて見たことがありませんから、第一の御質問事項に答へることができません。隨て第二の問題たる議會行動が、どの程度まで役立つかと云ふ如な問題は何處です。
しかしプロレタリアの社會運動は、我國も矢張り原則通り都會のプロレタリアが先驅を務めるものと思ひます……だからと云つて農村運動が馬鹿に後れるとも思はない。

□ 田所照明氏

一、農村に於いて發展するものと思はれる。しかしその農村に起る政治運動は、やがては政權奪取の政治運動を生むにしても、現在起らんとするものは單なる現代流の政治運動で、それは要するに永井の雄辯による政治熱の陶醉位のものでしやう。
二、議會行動は大したことはない。原則上からも都會の現狀からも。獲得はソロバンによる。私のソロバンは銜損を示してゐる。その位小さな塲面でしやう。

□ 行政長藏氏

一、プロレタリアと云ふ言葉が、農村に於る自作兼小作人以下の人間を指すとすれば、先づ農村に發展するでしよう。
二、プロレタリアの政治運動中の議會行動とは、普選を前提としての事かと思ひますが、眞實の事を申しますと現在の小作人たる人達は、議會へ清き一票を送る事よりも、地主へ貢き一俵を少なく送りたいと云ふでしよう。又都會の勞働者の多數は議會行動の重要さよりも、寄所の行動の重要さを前に知られねばなりますまい。
要するに政治運動とか、其の中の議會行動の重要さとか云ふ事は、十分に新聞や書物が讀めて文書が書て演說が出來る人の問題です。

□ 山代吉宗氏

一、一般的文化運動乃至社會運動の發展が都會を中心とし地方に波及する如く、プロレタリア政治運動の發展も都會の方が早い樣に思はるゝ。――尤も農村が一旦運動の導火線を切るや勞働者の數の大半を占むる農村勞働者の運動は高率を以て展開する樣にも思はるゝが、マア一般的に云つて、都會の方の發展力が大と思ふのが妥當だらう。
二、プロレタリア政治運動の主たる手段は、自然必然的に××運動、即ち×××××、アクションに依らねばならぬ事と思ふ。其運動は理論で無く大勢である、作爲の問題で無く生成の問題である。望まれ得べきもので無く、自然に現はるる流である。故にそは如何なる時代にも、如何なる社會にも主張さるべきものでは無い。其時代其社會の狀況如何に依つて主張さるべきものである。議會行動は此の革命行動や××××××、アクションを爲す迄の一時的過渡的の運動手段である。議會行動の重要さ、價値はそれだけだ。換言せば議會行動は此の××手段×××××、アクションを實行するに到る迄の過渡的社會の一時的漸進的方策である。

□ 布施辰治氏

我國今後のプロレタリア政治運動は、その本質から云ふても、農村勞働者の傾向から見ても、都會勞働者の間よりも、農村勞働者の間に發展すると思つて居ります。けれども、私は夫れが、御問合せに所謂「先づ」と云ふ事にはかゝらないと思ひます。ナぜなら、都會勞働者プロレタリア政治運動の時期があまりに短か過ぎ、又、其の勢に甚だ微弱であつたにもせよ、今後のプロレタリア政治運動が、都會勞働者の間よりも、農村勞働者の間に發展すると思はるゝ現在以前に於て都會勞働者の間に所謂プロレタリア政治運動の發展した事があつたのであるが今や、議會行動に重きを置く所謂政治運動を突破して、都會勞働者と農村勞働者とを問はざる全無產階級運動の前衛を先驅して居ると思ふからであります。
從つて、プロレタリア政治運動今後の發展が、都會勞働者の間よりも、農村勞働者の間に見る事が出來るとしても、決して御問合せに、所謂「先づ」と云ふ譯のものでは無いと信じます。と同時に、矢張りプロレタリアの運動は、都會勞働者が何事の發展にも、前衛の先驅を努めて、農村勞働者が殿軍の後詰めをするものたる事に於て、我國のプロレタリア政治運動も、又、其の原則に反くものでは無いと信じます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

次ぎに、プロレタリア政治運動の全面中、議會行動がどの程度の緊要さを占むるかと云ふ問題に就ては、所謂政治革命の無意義――形式的制度革命の無意義――觀念的自由平等の無意義――引き括るめて云へば、先づ制度と組織とを革命して、夫れに私共の實際生活を當嵌めやうとする事の無意義にして、眞の革命は、先づ私共の實際生活を自由平等に革命した上で、夫れを確保する制度と組織とに進まなければならないと言ふ革命戰術の原理を理解せしめ、體得せしむるに役立つ程度のものであらうと信じます。

（追記）私は大正六年に普選提唱の第一聲を擧げた當時の所信に就て、未だ系統的の發表をした事は無いが、兎に角、普選の提唱から、社會運動に進んで來た私としては、近來の所謂プロレタリア政治運動に關する諸家の論爭に、隨分大きい興味を有つてゐる丈け、又、イクラか變つた考へをも有つて居りますので、何時か時期を見て、それを發表したいと思つて居ります。

□ 城室光氏

一、先づ都會に於て發展する可能性を有するは現在の都會と農村とを比較しても之れを證するに餘りある。何事も遲々たる農村が（最後の發展は兎も角）都會に先驅しやうとは考ふるを得ぬ。

二、プロレタリアの議會行動は如何に普選が實施されて無産者に參政權を與へられやうとも、従來の先入性の消えない頭では制限された今と何等選ぶ所なしとすれば、これを無價値とするも誤りでは有るまい。

□ 中島安太郎氏

一、農民の神經は鈍感であり迷信的であるに反して都會人は神經的であり打算的である。田舍は宗教的であり都會は科學的である。田舍に於ける、親鸞とサーベルは恐ろしい力を持つてゐる。しかし新しい芽が、ぼつ〳〵立つて來るプロの政治運動は都市が先驅して農村は次第に力強く擡頭する。

二、プロの議會行動は政治の全面を通じて（解散されたる）國民黨程の重要さを占むる位が最上であると信ずる。

□ 西村佐一郎氏

一、プロレタリア政治運動は私達の云ふ意味――共産主義の立場から――に於ては既に都市勞働者に依つて爲されつゝあると思ひます。現在私達の問題とするのはそれ等の政治運動の中樞機關を如何なる時期に、如何にして、如何なる構成分子に依つて組織せらるべきかと云ふ點であります。故に第一問に對しては政治運動の機關、即ち政黨の組織如何、そしてそれが先驅をなし、中心勢力を爲すものは如何と云ふのでありますが、私は矢張都市勞働者が先驅であり、中心勢力であらねばならぬ、又あり得ると思ひます。何故ならば階級意識に覺醒する環境及び素質がその問題の決定點であるからであります。

二、プロレタリア政治運動の全面中議會行動はほんの一小部分で、それは寧ろ具體的問題を決定すべき用をなすにあらずして宣傳――即ちブルジョア階級の獨裁の曝露、階級的協調の絕對不能、プロレタリア獨裁の必然的必要等を強調して、民衆をして革命意識に醒しめる手段の一部に過ぎないと思ひます。

□ 吉川守邦氏

一、十年以前の直接行動論が幸をなし或は災をなし、政治運動は農村で先づ進む傾向が有る。現在に於て農民は政治運動に非常に目覺めて來てゐるが、其れは淺い意味の政治運動で普通選擧でも敷かれゝば消えて無くなりそうである。だから此所で眞の政治運動――眞のプロレタリア運動、深い意味の政治運動を宣傳して方向を過まらない樣にしなければならんと思ふ。プロレタリア政治運動の全面中に、議會行動の占むる部分は、ほんの僅か青年會館か此頃早大學生の使つた大隈會館位の程度で有つていゝと思ふ。

□ 三崎良水氏

殊と事情の上とから見て、農村が先づ發展するでせう。

議會の内部は割合に言論が自由だから資本主義國家のカラクリの内情を曝露してやる機會が多い。議會の役に立つのはそれ位のものでせう。

□ 町田篁氏

一、僕は先づ農村に於て發展すると信じます。原則通りに行かない理由は日本の農村プロレタリアの狀態が他の國と違つて居るからです。

二、しつかりした本隊の出來る迄、前衛の役目を果すでせう。本隊のなすべき本統の仕事は勿論議會以外にあります。

加波山擧兵の檄

（政治運動は議會に依つてのみ行はるものでない事は、議會の開かるゝ前にも澤山の政治運動が行はれた事に依つても知られる。加波山擧兵事件の如きは、その最も大きな一つである。）

抑も建國の要は、衆庶平等の理を明かにし、各自天與の福利を均しく享るにあり。而して政府を置くの趣旨は、人民天賦の自由と幸福とを看護するにあり。決して苛法を設け壓逆を施すべきものにあらざるなり。然而今日吾國の形勢を觀察すれば、外は條約未だ改まらず、内は國會未だ開けず、爲に奸臣政柄を弄し、××××××××人民に對し、收斂時なく、餓孚道に横はるも、之を檢するを知らず、凡慘狀尙も志士仁人たるもの、豈に之を默視するに忍びんや。

夫れ大廈の傾けるは、一木の能く支ふる所にあらずと雖も、奈何ぞ坐して其倒るゝを見るに忍びんや。故に我々茲に革命の軍を茨城縣眞壁郡加波山上に擧げ、以て自由の公敵たる專制政府を顚覆し、而して完全なる自由立憲政體を造出せんと欲す。嗚呼三千七百萬の同胞よ、我黨と志を同ふし、倶に大義に應ずるは、豈に正に志士仁人の本分にあらずや。茲に檄を飛して天下兄弟に告ぐと云爾。

明治十七年九月二十三日

茨城縣　富松正安　玉水嘉一
保多駒吉
福島縣　杉浦吉副　三浦文治
五十川元吉　山口守太郎
天野市太郎　琴田岩松
草野佐久馬　原利八
河野廣體　横山信六
小針重雄
栃木縣　平尾八十吉
愛知縣　小林篤太郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

議會行動と街上運動

西雅雄

言ふまでもなく、プロレタリアの政治運動の目標とするところは、組織されたプロレタリア自身の手に政權を獲得することである。この一大變革が、如何なる民主的國家に於いても、議會にプロレタリアの代議士が增加することによつて、平和裡になし崩しに行はれる筈はない。議會が××の戰場でないことはわかり切つてゐる。階級に目ざめた勞働者、資本制度の打破を目ざしてゐる勞働者が、ブルジョア議會を否認するのに何の不思議もない。

しかし政權の獲得といふことは、要するに最後の目標である。目標に達するには、それ相當の順序があり、それ相當の戰術がある。一度否認したブルジョア議會に革命的なプロレタリアが入つて行かうといふのは、かういふ順序、戰術を自覺したからに外ならない。プロレタリアの議會否認は、その政治的自覺の第一歩であり、プロレタリアの革命的議會行動の是認は、その政治的自覺の第二歩である。

とはいふものゝ、革命的プロレタリアは、如何なる形勢の下に於いても、議會に入らねばならぬ譯ではない。或る形勢の下に於いては、議會をボイコットして、一直線に目標に達し得ることもある。一國の革命的形勢が切迫して、民衆が直ちに權力獲得の××に轉せんとする形勢にある場合に於いては、即ちこの戰術が最も有效でなければならぬ。しかし形勢が普通であり、プロレタリアに準備のない限り、議會は一つの重要な階級鬪爭の戰場である。

日本の民衆は『日比谷の蛙合戰』には愛憎をつかしてゐる。少數の革命的な勞働者は議會そのものをも否認してゐる。勞働者によつて行はれる各種の示威運動は、次第に勢力を增しつゝある。一見したところでは、日本は革命直前の形勢にあるかの如くである。けれども吾々は決してこの外見に欺かれてはならぬ。

日本の勞働大衆は封建的勢力と資本の壓迫とに苦しめられてゐる。『日比谷の蛙合戰』には飽いてゐるが、民主的要求は決して捨てゝゐない。少數の勞働者は革命化してゐるが、大多數の勞働者には未だ組合の組織すらもない。そして一方選擧權は遠からず擴張されて、多かれ少かれプロレタリアの代表者は議會に入らうとしてゐる。普通選擧の實施は大衆の間に政治思想を喚び起し、或は大衆が議會に殺到しないとも限らない。

さういふ形勢の下に於いて、革命的プロレタリアは議會をどうするかといへば、勿論その中に入るより外はない。議會に入るとは、プロレタリアの革命的戰線を比較的容易に擴大する所以である。

しかしながら革命的プロレタリアの行動は、單に議會に入ることには止らない。議會はその戰場の一部分に過ぎない。數年に一回の總選擧、一年に三四ケ月の議會の會期は、彼等にとつて重要な舞臺ではあるが、それよりも更に重要なことは、彼等が常住あらゆる機會を捉へて行ふ、あらゆる形式の『街上』の運動である。議會に於ける代表者の行動は、斯やうな街上の運動によつて應援され、支持され指圖されることによつて、初めて力あるものとなる。

プロレタリアの政治行動は、形勢に應じて種々の形態を取るだらう。『議會行動がどの程度までの重要さを占めるか』といふことも、精密なことは、實際の形勢によつて決定されるの外はない。しかし唯これだけのことは明かである――議會は決して××の場所ではない、それにも拘らず議會行動は必要である。そしてまた、議會行動にせよ、街上の運動にせよ、プロレタリアの政治運動は、プロレタリアの政黨によつてのみ有力に組織さるべきものであることは、更に一層明かである。

大衆の威力は何と言つても數にある。政治運動の形態と言ふ問題も、要するに數の威力を最も完全に發揮し得る所に求められるであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五月一日（メーデー）

東京

會場の芝公園には、午前十時四千の大衆が集つた。半田利助君開會を宣し、高山君が宣言を朗讀する。正午三ヶ所の自由演壇が設けられた頃から、例に依つて巡査の腕力が發揮され始まり、演壇も打ちこわされた。

午後二時半示威行列に移り、芝浦勞働組合を先頭に、五丁の長陣は折柄の驟雨を浸して神田橋にかゝると、待ち構えた巡査軍は一齊に檢束を開始し、忽ち三十餘名を拉し去つた。昌平橋で又三十餘名檢束されたが、行列は松住町から御成街道へ向つて押進んだ。上野山下には附近の巡査が總動員で待伏して居た。萬歳の聲が起ると宣傳ビラは雪の降る如に飛散する。行列は駈足となり、一氣に山内の大道路を兩大師前の廣場に雪崩れ込んだ。林の如き團旗は飄々として青嵐にはためき、先頭の大旗を中心に潮の如き行列は廣場に大渦を巻き、歡呼の聲と共に半田利助氏は壇上に突立つて痛烈なる解散の辭を述べた。勞働歌は再山内を搖がし熱狂せる大集の手に團旗は幾度か引け切られる許に打振られた。かくて午後四時半萬歳を三唱、警官隊の包圍裡に解散した。

此の日の勞働團體の行列の整然たるに引換へて警官の横暴さは實に言語に絕し髮の毛をとつて泥土の中に引倒し、擲る蹴る踏む等は檢束者の殆ど總てに加へられたのであつた。自働車に投げ込まれて塗られる時は顏面から鮮血の流るゝ者も少くなかつた。

芝公園より上野公園に至る間の檢束者は百五十餘名、その他各所交番に一時檢束されたものは數百名に及んだ。此の不法なる、狂人的檢束に對し、今自由法曹團は調査を進めて居るが、何れにしても大衆の物理力が巡査の物理力に壓倒せらるゝ限り、年々繰り返さるゝ事であらう。

大阪

中之島公園の反橋を境に總同盟側と、反總同盟會とは別々に勢揃をなした。總同盟側は、午前十時頃より各々會旗を押立て、赤色の三角旗を打振りつゝグラウンドに繰り込み、勞働歌を高唱して盛に氣勢を擧げる。各團體は續々難波橋土手に雪崩込み朝鮮勞働同盟會の五百名も『日鮮勞働者團結せよ』の標語を染めた長旗が人目をひく。正午頃には、中之島公園は青服とカーキ色の勞働者に埋まり、赤い會旗と白い銘旗とは新綠の風に翻り、氣勢は周圍を壓して居る。處へ過日來同盟罷業を起して居る美津野運動具店の男女店員六十六名が、驅足で繰込んで來たので各團體は歡聲を擧げて迎へた。

一方、反總同盟側にては午後過ぎ司會者の挨拶に次いで大阪煙草勞働組合の神谷氏が一場の演説をなし、終つて六千を算する勞働服の大軍は機關工組合の會旗を先頭に、グラウンドを一周して天神橋の中央部の上り口で、警官隊に各自赤色小旗を渡し數百本の紅白の會旗や、長旗を押立て、勞働歌メーデー歌に氣勢を示しながらズラリと路の兩側に垣をなした警官隊の間を潮の如く南へ天王寺公園に向つて行進を續けた。この、反總同盟系の行列が天神橋の中央に差かゝつた際、果然待構えて居た、巡警連は目の色を變へて殺倒し、勞働者が手に手に持つた赤の小旗を引捥り、モットーの長旗を引たくり、靴で踏みにじり、折り挫く擲る蹴るの爭鬪の惑は切つて落された。檢束される者は續出する。出發前ヂリヂリ擡頭して居た殺氣は橋上の爭鬪で爆發して、天神橋上は時ならぬ亂鬪の巷と化した。かくてこゝでも、官憲×××は本性を發揮した。

> **メーデー標語**
>
> 八時間制即時實施
> 生産權の獲得
> 失業防止の徹底
> 植民地の解放
> 土地の國有

京都

總同盟、京都聯合會、西陣織友會日本勞農會等の主催で午前九時東七條川端町の聯合會本部で旗祭の後、官憲横暴糾彈演説をやつた。警察の干渉により、示威行列が行はれないのみか旗の色大さ數に至る迄一々制限されて居るので、參集した五百の勞働者は數十小隊に分れて三々五々本部を出發し、七條五條四條三條寺町烏丸等の大道を約二萬枚のビラを配付して宣傳を行ひ午後三時岡崎公園に引上げたが途中數名の檢束者を出した。激昂した勞働者は、折柄同所で京都市の工場主が發起して居る工業一心會の慰安運動會が催されて居たので、殺到して同會場に雪崩れ入り、勞働歌を高唱して示威を行ひ警官隊との間に衝突があつた。引續き午後六時よりは演説會を開いた。

神戸

正午までに湊川遊園地に參集した勞働團體は十三其の數約千三百に達した。メーデーの歌を合唱しつゝ、公園を數回廻つた後指揮者神戸職合會長木村錠吉氏外數氏の演説ありて後長蛇の如き行列は楠公社に向つた。

横濱

午後二時四十分横濱公園に開催されたが、各勞働團體の代表者は代る代る演壇に立つて、熱辯を振ふ。宣傳ビラは吹雪の如く飛ぶ。四十餘名の警官隊はエム、エヌ社の一團を包圍して取押へんとした所、群集の背後なるツ、ヂの陸より横濱印刷職工團の團員十數名は竹槍木刀等を以て躍り出で之を援けんとして警官隊と大亂鬪を演じたが同團員七名は遂に檢束された。

岡山

四大寺午後一時より高島座に於て農民問題講演會を開催し、佐野學、平野力三、桂信三諸氏の講演があり四時過散會した。

福田村地方は最近地主側は大農組織

に經營すべく小作人に對し土地返還を迫つて居るが、小作人は土地不返還を主張して爭議の巷にある。本年より例祭の春祭の期日を變更して此のメーデーとし、其の第一回の春祭と示威運動とが擧行され地主に對して小作人の威力を示して大いに氣勢を擧げた。

岡山市では午後一時仁王町正覺寺に會合、田中岡山勞働組合主幹の開會の辭があり、ついで示威行列に移り、岡山郵便局前から岡山驛に電車筋を京橋終點に至り散會した。

備後因島にては、大阪鐵工場因島工場及備後工場との各休業し、日本勞働總同盟の會員約五百名は九時土生町荒神山に集合し、勞働歌を高唱しつゝ、同町を練り更に三庄町に至りて示威運動をなし正午散會した。

名古屋

勞働組合聯合會主催で最初のメーデーを擧行した。前日卅日各組合幹部九名が檢束されたが、鶴舞公園音樂堂には午前九時頃から、十團體の勞働者が續々集合し、同十一時六百の警官隊の物々しき警戒の中に名古屋別珍工場の女工四十名を先頭とし各團旗と長旗とを翻して公園をくり出した。標語旗は忽ち警官の手に奪はれた。行列は公園通から大津町本町を那古野神社に向ひ午後零時半頃到着萬歳を唱へやうとしたが、又も警官の干渉により果さず、午後一時散會した。

朝鮮

京城は勿論全縣に於ける各勞働者團體、各社會團體は猛烈なる示威運動を計畫して第一回のメーデーを紀念せんとしたが、警務當局の干渉により、總ての行列、總ての屋外集會は禁止せられ僅に講演會を許可したのみ各地之がために多大の氣勢を殺がれた。午後八時鍾路中央青年會場に於て朝鮮勞働同盟會主催のメーデー紀念講演會を開催したゞけであつたが、之に依つて半島の社會運動に一記録を作つた。なほ當日は少年デーを催し、二千名の少年を糾合して示威行列を爲し、宣傳ビラを配布する筈の處之も當局には禁ぜられ午後三時より鐵路天道教會に發會式のみを擧行した。

鬪士はかくの如くして奪はれる
メーデー會場より一勞働者が檢束せらるゝ所

盛岡

盛岡、突如としてメーデーの演說會を開催する事を發表すると當局の狼狽は極度に達し順序に從つて壓迫迫害は頂上に加つた。演說會は勿論禁止されるし、準備して置いたチラシ、リーフレット等は押收されて了つたいよいよ當日(一日)になると、署長は演說會を政談演說と認める事とし、重だちたる數名に尾行を附た。

午後七時開會といふに早くも五時半には場の入口は、官服の警官が四名立つた私服刑事警部憲兵等合せて二十名は場内の要所に陣どつて居る。同志の眉宇には皆悲壯なる決意が漲つた。そして地方から頻々と來る祝電によつて歡び合ひ勵まし合つて居た。開會間際に岩手日報主筆、阿部蒼天君は今日主義のために首になつたと言つて入つて來た。同志は次々に演壇に立つて熱辯を揮り、悲痛なる絶叫を繰り返した。來會者中學生は警官のために追込されその他にも物々しい光景に歸へつたものも少くなかつた。

廣島

午前十一時頃より、勞正會を先着として各勞働團體は會旗銘旗を押立て、會場たる東練兵場に續々雪崩れ込んだ。演說會を終つて直ちに示威運動に移り、活版親友會を先頭に、八百の群集は、四百の警官隊の警戒を受けつゝ二時間に亘つて市中を練り歩いた。革命歌勞働歌に和して、宣傳ビラは絶へず飛ぶ行列が廣島郵便本局前に來た時は行列の進行は急調子となり四丁餘を一氣に解散地に向つて殺到した。四百の警官も如何ともする術なく、廣島第一回のメーデーは至極平穩に終つたのであろ。

海外各地

倫敦では、テームス河よりエンバンクメントハイドパーク迄示威行列を行ひ、ハイドパークにおいて七ケ所に演壇を設け演說をなし、ルール地方に於ける獨逸勞働者に同情を表する旨を宣明し、ベルサイユ條約を破棄し露國共和國を承認する決議及日本のサガレンより撤退を要求する決議を可決した。

伊太利の共產黨員は、政府が一切の屋外運動を禁じたのを突破し、自動車を驅つて、銃火を浴びつゝ宣傳ビラを撒布した。

上海では支那人勞働團體が此の日を機とし、上海領事館に對して、言論出版集會の自由。さきに閉鎖されたる各勞働組合本部の再開。當地勞働運動によりて收監されたる勞働者の釋放等を要求する決議を可決した。又大會で、全國勞働組合の組織を討議した。

北京にては北洋商業學校、平民學校、社會主義青年團等の主催にて、天安門外に大會を開き、集會するもの千餘名。結社の自由、現政府の破壞、醜劣なる國會議員の排斥等三ケ條の決議をなした。

長春では午後三時より宣傳ビラを撒き當日鐵道は支那軍隊により嚴重に警戒されて居たが、一臺の機關車の重要部下を破壞した。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本に實在せる共產制(2)

伊豆の諸島村(一)

白濱村

白濱村は伊豆の南端下田港より東一里許、東一帶は太平洋の煙波を望み、御神火の煙絶えせぬ大島を始め伊豆七島の島々に對し、白砂の砂濱は伊豆海岸特有などす黑い重苦しい色調を破つて居る。之が白濱の名のある所以ださうである。

村は板戸、田原、原田の三區に分れて全部で戸數四百、人口二千四百、華族も居なければ士族もなく、ひらの平民ばかりの村である。村民の大半は農を業として居るが、天草と言ふ絶好の天產を享受する事が出來、半年近くはそれに掛り切らねばならぬ結果農業の見る可ものは殆どない。隨つて副業の樣な漁業就中天草の採取に衣食の道を求めて居る譯である。採取期は縣令により四月一日から十月卅一日までと定つて居るが、白濱では四月の下旬から十月も上旬にはもう切上るのである。

此天草採取は男女共同であるが婦人が主なる役目で、水中に入つて海草を漁り、男は舟を操る事と女を引上げる事とを受持つ。海女の事は「カツギ」と呼んで居る。「カツギ」の勞賃は採取高によるので天草十二貫に付一圓、一日二三圓は稼ぐが、多く採れる時、働きのある女は七八圓を得るさうである。これに比べると男の賃金は樂な丈に安く一日一圓である。此の採取方法の外溜草を網具で掬つたり、「ヒツカキ」と言ふ道具で舟の上から取る方法もある。風波の爲海岸に打上げられた寄草も交代で收取し得る事になつて居る。又蠑螺や鮑の採取も村の專用漁業に屬して居る。

天草採取が特異な方法であると同時に其の利潤の分配も特色がある。即ち純益金の中十分の二を村の基本として積立て、更に十分の二を村經濟の經常費歳入に組み入れ、殘りの十分の六を各戸に平均分配して來た。處が大正四年には基本財產三十萬圓に上り、之から生ずる利子丈で村費一切を支辨して餘あるを見るに至り、基本金蓄積の慣例は改めた。乃ち一方將來に於ける村經濟の膨張を慮り、又一方天草不作の困厄に備ふる爲、永安資金の契約を作り、四年度から二十年度まで純益金の十分の二を一戸宛二千圓を限度として元利增殖を計る事とした。其の契約には積立金は永遠に分割する事が出來ぬ事とし、目的額に達した後は利金全部を各共有者に平分すると定めて居る。共有者の一人が家計不如意に立至つた場合には、他の共有者が連帶して積立金を引取り得る事、又疾病其他重大なる災害の爲家運の興廢に關する時には、其年度收入中の十分の二以下を給與し得る事は共濟事業として見る可ものだと思ふ。天草の利益は年額二十萬圓前後で、其配當額は明治卅年採取權が村に歸した當初は僅か七圓位であつたが、大正七年には三百圓を超ゆるに至つた。但此配當金を受くるには

共產制問答(二)

A 共產制に就て何も知らぬ人
B 共產制に就て一通り知る人

A『此の前は、何だか君に言ひ捲くられた觀があつたが、まだ澤山問題は殘つてるぞ。第一、共產社會になつたら、需用と供給との調節はどうするんだ。資本主義の社會では、その點がウマく出來て居て、大體要らんものは作らない。それは社會の必要以上に作つたつて賣れないから損をする。丁度適宜に作つて作つただけは賣れて消費されて了ふ。それで勞働力や原料の無駄が無い。此の、生產と消費との調節と言ふ事は、人間經濟生活の上に大變重大な事だ。それが共產社會ではどうしてやつて行けるんだ』

B『大分、君の質問も利恰になつたが、そんな事は何でもないよ。生產を統一する總本部と言つたやうなものを作り、全國の需用を調べて、それ〳〵の物品を必要だけ作ればいゝではないか。全體の必要を計り、それに應じて生產すれば、過不足は生じない筈だ。それよりも、今の資本家が目分量やアテ寸法で生產する方がどれ程危險か。足りなくなつて馬鹿に價格が高くなつたり、餘つて持て餘して大きな廣告で賣り盡さうとしたりするのは、皆んな生產の見當が外れる爲めである。その方にどれ程無駄があるか知れないよ。』

A『それから、今度は少し方向を變えて聞くがね、假りに共產社會になつても、だ、賃銀なり、分配物なりを、消費せずに貯蓄する者があつたら、矢つ張り金持

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

二十年以上定住するを條件として六十年以上住居することによつて其半額を支給される規定である。

以上の如き有利な經濟的資源と特色ある經濟組織を有する白濱村は比較的安易に諸般の公益的施設をなし得る譯で、敎育にしても尋常小學校の上に三年の高等小學校と實業補習學校とがあり、尋常小學の卒業者の大部分は高等小學に入り、又中等學校入學者も田舍としては甚だ多い。衛生設備としては、村有の立派な病院にお抱えの醫者を置き金融機關としては信用購買組合がある。又こんな小さな村に銀行の支店代理店が四つもあるのは、以て金融狀態の好況を窺ふに足る。

海産物の豐富は必然的に勞力を此方面に集中せしめ、隨つて農業を閑却せねばならぬ。小作人としては一反歩の收入を地主と折半し、三俵を得るとしてもそれが一俵殖えるか減るかは海産採集の勞賃に比較すれば何でもないと考へるのは無理もない事だ。昔は六俵取れたものが、今では四俵しか取れぬ。併し之も産業の一方面のみ共産的にして居る當然の歸結であると思ふ

天草採取といふ營利事業の利益を壟斷する者が存在しない結果貧富の懸隔は極めて少く一般的に富裕で衣食に苦しむ者は斷じてないといつてよい。村税に付て面白いのは富たるも貧しきも平均に賦課せらるゝ事であるが、之は一方各人が同等に村費を負擔して居ると言ふ意識から村政に就いて同等の權利を要求する結果となる。

村人は他村に見る樣に富豪に特權的地位を甘じて認容する樣な事をしない。又人情が純朴で營利に熱中し他人を欺いても自己の利慾を滿足せしめ樣なごといふさもしい根性を此村人は持ち合はせて居らぬ。相互扶助の精神はあらゆる方面に發露して居る。

然し村民は經濟的に餘裕がある爲に其生活狀態は決して質素ではないし、貯蓄心も缺乏して居る。宴會等も頻繁に催されるが、目に見えて贅澤だ奢侈だといふ程ではない。餘剩價値を搾取した上で、此社會狀態の不可避的な貧乏を不德にまで陷れて、勤儉貯蓄を迫る不合理に比ぶれば、總てが生活を豐富にする事は決して咎む可き事ではない。新しい時代には生活の必要と、奢侈の標準とは當然かへられなければならないものである。

婦人が勞働の主要となり、一家の家婦が外に出て勞働する結果は家庭的にも道德的にも面白くない影響を及ぼして居る事や共同の目的に向つて相協力し、一般に相互扶助が相當に行はれて居るのに、議員選擧などゝとなると躍起となつて競爭騷ぎをやり、親戚關係も黨派によつて破れる等と言ふ事であるが、之は勞働の過勞や精神的覺醒の足りない事、或はその他の關係からであつて、共産制といふ事に原因を發して居るのでは決してない。

要するに白濱は未だ生長しきらぬ幼兒である。海産物の利益分配が公平な丈では未だ足らぬし、其の配當も生存權の確立には相距る事遠い。經濟的に進步して居る割合に精神的に開發されて居ない。そのいゝ處は天眞爛漫な無邪氣な粗朴さである。

が出來る、金持ちは間もなく資本家になり　社會は共に腐りはしないか。』

B『共産社會に、貯金する人があるか無いかは分らないが、假りにあるとしても集めた金は單に金であつて資本ではない資本と言ふのは、金を生産機關に代へてそれで賃銀勞働者を働かせる時に出來るものだ。例へばこゝに十萬圓現金があつたつて、それはまだ資本になつてゐない。それで工場を建て、そこで勞働者を働かして儲ける、つまり勞働者を搾り取る、そうなつた時始めて現金は資本となるのだ。所で、共産社會では、假令金を貯めた者があつてもその金を資本として働かす事は社會が許さないから。持ち腐りにするか、使つて了ふかの他ない金が資本として運用せられるからこそ、金を持つた者が産業を支配し、今のやうな社會的の種々の禍が生れて來るのであるが、それがたゞ金として使ふだけであつたら、人が人を搾り取つたり、生産が個人の利益の爲めに營まれたりするやうな不合理は行はれないのだ。

個人の富が、單にその人の幸福の爲めに費さるゝなら、その害は輕い。それが他の人々の勞働の成果を搾り取る道具となつたり、生産を獨占する役に立つたりする所に、資本主義と言ふ經濟制度の禍があるのだ』

A『人間は一體、自分の所有物を愛するものだ。私有の生産機關が無くなれば何もかもぞんざいに扱はれて、早く壞れて了ひはしないか。そうしたら大變な損ではないか』

B『イヤそれは可笑しいね。今日の大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

重ねて言ふ、白濱は大きく伸びる天稟を充分に備へた赤兒である。

濱崎村

白濱の南、下田の東、半島部を占めた人口二千六百の村で、須崎、柿崎二區よりなる。白濱と異る處は採草を村營とせず、漁業組合經營として居る點であるが、村民は全部その組合員となるのであるから實質に於ては大差はないと言つてよい。

毎年の配當金は須崎は凡そ十一萬圓、一戸當三百五十圓、柿崎は四萬圓、一戸當約百圓位になつて居る。

海上の仕事は甚多く、天草の外に海鼠、鮑、蠑螺、伊勢海老等も尠からず獲れるが、之等はすべて採收權を個人に讓渡して唯魚類のみは村人の自由な捕獲に任せて居る。

畑は豊富で一戸に對して二段歩宛位に當るさうであるが、收入は海の半分にも及ばない。

村税は海からの收益を以て充當して居るが、白濱の如き寄附行爲の形式とせず、表面貧富の階級に應じて多寡の等級を定めて置いて、實際は合計して總額を一人が代納して後に組合の方から賠償する事になつて居る。即ち實質上各戸平等に村税を負擔して居ながら、表面は差等を設け、隨つて富有者は議員の選擧にも等級の上位を占めて、有利な一級選擧人の位置を壟斷して居る。富者の狡猾な胡麻化しが成功してこんな不合理が平氣で看過されて居る。

又天草採取に從事するものは比較的富裕でない者に多く、富者は自ら採らず、而も他より代人を傭ふ事は許されて居ない。一人一日の勞賃は時に七八圓にも登るが、勞賃は下層の人々のみの獨占する所であるから村費は平等に負擔しても、勞賃の方で補はれるから好いではないかと言ふ者があるかも知れないが併し之は些も理由のない詭辯である。何となれば富者が海に出てはならないと言ふ事はないのに出ないのは單なる怠惰の結果で、偶然に多少の資産を持つて居るからといつて、働ける身を働かさずに、勞働者の努力の結果の分配に均霑する理由は少しも認められない。而も彼等は形式丈は整へて置いて自分の特權的地位を得る根據として居る。けれども淳朴な村民は何の不平も洩らさず營々として働いて居る。そして他に見る程の細民窮民は居ないのである。

田牛村

下田の西一里の所にある。此村では海草の採取權を全部個人に賣渡して居る。土俗之を浦を賣るといつて居るが、浦を賣つて得た利益を村民全體に配當して居るのである。

以上の諸村は、共産制とは言ふものゝそれは生産の一方面だけである。然しそれでも、他村に見る事の出來ない經濟上の裕福さを享受し得る事と、純朴な性情を保ち得る事とに據り、共産制が如何に人類生活の向上に緊要であるかを立證するには充分であらう。

次號には初島、御藏島の共産制に付いて述べ樣と思ふ。

〜〜〜〜〜〜

工業の勞働者に一體自分の生産機關で働いて居る者がおるかね。賃銀で勞働力を賣つてゐる者は皆んな資本家、つまり他人の生産機關で働いてゐるではないか。大體、君等私有資本主義者は、すべて都合のいゝ時には、中世の手工業時代の理屈、つまり一人々々の勞働者が、皆んな銘々の道具を所有して居た時の理屈で今の資本主義の私有を辯護せうとする。今の問題なんかもそこから來るんだが、それは大變な見當違ひで、今日の生産機關の所有者（資本家）は、別莊でヒル寢をして居て、自分の生産機關なんかは見た事もないよ。見るのは株券と利札だけさ、それで私有物を大切に取扱ふにも扱はないもないものだよ。だから若し君の言ふやうに、人間は自分の所有物でなければスグ叩き壞すものださすれば、資本主義の工場なんか、一週間位で灰になる筈ぢやないか。要するに、本當の私有制度、即ち生産機關を所有してゐる者自身がそれを使用して、自分で勞働した時代の（今日で言へば箱細工職人などのやうな）事情さ、今の資本主義產業とは全く趣きが違ふんだ。幾千、幾萬の勞働者が、一つの工場で分業と協力とで勞働し、誰がどの品を作つたかなど、皆目見境ひはつかず、つまり工場の全體が品物の全體を作ると言ふ生産の事情は、もう全く共産的生産の樣式を備へてゐるんだよ。自分の所有する工場でなければヂキに壞れる。だから共産社會は駄目だなんて言ふ理屈は、もう君古いぜ』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

首になつた日

井手さし

去勢されて、虐使されて、忍従しつゝ生きてゐるものは、恐らく馬だけであらう。私は馬ではない。人間である、さうして女である。資本家が自家の都合のために、私の生命を奪はんとする時、または去勢せんとする時、反逆の血が私の身中に沸騰する、呪咀の焔が猛然と燃え上つて來る…………。

去勢されて馬の如く忍苦するよりは、寧ろ街頭に餓死するか憤死する方が遙かに幸福である虐げらるゝ人々よ、餓死を覺悟して街頭に勢揃ひせよ！

五月十六日午後四時、私が、『實際運動をすることは社風を紊亂するものである』との廉を以て、首を切られて家にかへつてみると、弟（芝浦の日傭人夫に行つてゐる）は工場の屋根に明取の窓硝子を拭きにあがつてゐたが、二度目に昇つて屋根に片足をつけたと思ふと同時に、梯子の中途が腐れてゐたので其處が折れて墜落したといつて、左腕に繃帶を卷いて寢てゐた。そして彼はかう云つた。

『お姉さん！　人夫なんかは人間とは思はれてゐないのだから……古く朽ちた塗炭屋根の隙間からは、大きなモートルが恐しい勢で廻つてゐるのが見えるんです、それに急勾配で一寸油斷すれば辷べり落ちさうなんですそれに何時何處を踏み破つて機械の上に落ちないと保證が出來ませう。見ただけでも危げな素人造りの屋根なんです。どんな怪我をしたつてすぐ病院に行く譯けには行かないんです。いちいちその係の所へ行つて原籍、住所姓名を名乘つて書きつけを貰つてゞなければ駄目なんです指の二本や三本落ちたつて、腕がちぎれたつて、人夫などには一厘の手あてもないんです。私は今日二時間働いて落ちたのだから二時間分三十錢貰ふことになりました』と、幸ひ傷は輕かつたので私達はよろこんだ。

壓迫のあるところに爆發がある。この磨き澄まされた私の逆襲の劍は、横暴な一資本家の手によつて、更らに強く力づけられたのである、

私は生れながらの主義者ではなかつた、思想は今日の社會組織が植えつけて呉れたのであるそしてそれに直接火を點じて呉れたものは、實に一保險會社長と、改造社長山本とであつた。

飛び出したい／＼と願つてゐたところを、丁度都合よくピンとハネ飛ばされたのだから、それは實に小氣味よい程勢よく私の愛する多くのきようだいのゐる廣い街頭に放たれたのである。其處は自覺ある無産者の世界、強い首無しの住む世界である。

もう、私は理論を讀んだり、考へたりする餘裕はない。首をとつちめられて萬卷の理屈を並べたつて、それは無効である。夢でなく、私は今現實に權力の前に、力の前に打のめされてゐるのだ。兎に角チットしてはゐられない。

人間が、人間として生きられない世の中に偸屈從し、忍從する奴は馬だ、犬だ。馬でない人間なら、犬でない人間なら、生命がけで、人間としての奪はれた權利を奪ひ返すのは當然ではないか。

私等は資本主義の崩壞は自然には來ない事を承知してゐる。さらば、もつともつと、強く勢よく起ち上ろう！

私は失つて強くなつた。もう今迄のやうな氣兼ねはいらない安心して云ひたいことがいへるやうになつた。私は正しいことを、正しいと云へるやうになつた。食ふに困つたら監獄に行けばよもや干ぼしにはすまい。大聲を擧げて巷に宣傳することが出來る、敵に向つて昂然と戰宣を布告することが出來る。

私の生きることを阻む奴とは戰ふだけだ。さア夏よ來い！私はお前の慘虐な苦熱とも戰はう――。

時局研究會リーフレット第一輯

昨年十二月、無産階級政黨樹立を提唱して生れたる時局研究會は、リーフレット第一輯として『經濟運動と政治運動』を出した。第二輯『軍國主義』近刊 定價何れも一部一錢。

市外池袋七六七　時局研究會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

プロの眼

浦鹽から

荒涼たる雪の中を、物凄い黒煙を吐きながら、列車は長蛇の如く走つて行く。侵略主義の××旗が雪隠詰めの殺戮の中から逃げ出して約二ヶ月目だ。日本海の荒浪、洗はるゝウラヂオストツクは無産階級の血汐に染められて、赤旗が海にも陸にも翩々として翻つてゐる。革命五年、容易のブルジヨア國の武力侵入も最期をとゞめて、プロレタリアの國には平和さ建設の時代が來た。

極東の産業國を誇つてゐる某國の技師は、アムール鐵道は解氷期になつたら使へないさ云ふて、三年前にブルジヨア的の匙を投げた。ブルジヨア技師に見放されたアムール線も、プロレタリアには一向支障がなかつた。三年後の今も運轉せられてゐる。而も二十日以上もかゝつた所が十二三日に短縮せられた。浦鹽に赤旗が翻いてから六十日目には三四千露里の行程も八日間でつくことになつた。

俺達は八日間でチタから浦鹽に行く爲めに、第一回の急行列車の試運轉をしてゐるのだ。プロレタリアに國境はない。俺達の色は黄くても赤い心はインターナシヨナルだ。精神ばかりではなく色も言葉もインターナシヨナルがゐる。俺達は此のインターナシヨナルツ子さ一所に働いてゐる。ブルジヨア社會では合ノ子さして嘲笑せられ侮辱せられたけれど、今ソヴエツト共和國内では一つの誇りである。日本で江戸ツ子が威張つてゐるさ同じ樣に、ロシアではインターナシヨナルツ子が威張つてゐるのだ。全世界をして眞に一ツの社會さし民族的の反感さ消滅せしむるのは、血液の混合によらなければならぬ。此の尊い使命の先驅はインターナシヨナルツ子の双肩にある。（赤岐狂平）

内と外の闘爭

妻は病床に臥し兒は餓に泣く。――の詩を賦した一志士のヂレンマが僕の心に映る。燃ゆる心を抱いて國事に焦燥しながら、進む事も退く事も出來ず、藻掻き苦しんでゐる彼の痛恨な顏が、閉ぢた眼にチラ付きます。我が兒を捨てやうさ決心し乍らも、尚ほ躊ふ彼の惱亂は、僕の心を暗がりへ誘ひます。

内面的な欲求さ外面的な諸關係との融合を、毅然さ阻斷する所の獨立意志は、身さ心恰かも磁石の兩極のやうな生活を強いる。こうした二元的な生活には少しも落付きがない。それは又堪へ難い痛苦であります。（中川精泉）

青年の血

慘忍なるブルジヨアの魔手に虐げられ社會の下積として辛うじてその生活を續けて來た我々無産者の脈管には本能的な叛逆の血が漲つて居るのである。永遠の恨を殘して逝いた同胞の胸裡―これを憶ふ丈でも、熱血は五尺の軀幹を灼き盡すかと思はれる程なのに、盲目的に物質生産に携はるのみで、絶えて自己の立場さへも考へる事をしない百姓（小作人）を見る時、我々は居たゝまれない程のもどかしさを感じるのです。『百姓にがくもんはいらない』『俺達は働くのが世の中の務めだと思ふから、働いて居る……』さ彼等は言ふ。人さしての生命の維持さへも保證されぬ吾々の生活の半歩先を彼等はどう考へて居るのか？此盲目なる（併し善良なる）我兄弟の覺醒を促し、手をさつて共同の戰線に立ち、人類の上に光明をもたらす事は吾々無産階級青年の使命である。

吾々の脈管には若い人のみの持つてツ赤な血が湧溢つて居る。針程の間隙も見逃さずに迸り出でやうさする叛逆の血が燃えて居る。置賜平野の雑草の上に、我々の熱血に染められた赤旗が飄々さ翻へるのもさう遠くはあるまい。（山形小出裂二）

當面の危機

日本に於ける我等の運動の當面の危機さも言ふべきものは、ボルシエビズムを信奉しつゝありさ確信してゐる共産主義者の間に於ても、『當面の現象』に對する見解が、果して一致してゐるかどうかさいふ點にあるさ思ふ。我等は常に、日本現在の政權分布の實勢に對する唯物史觀的觀察の貧弱なるを痛感する。山川氏の鋭利なる日本史觀さ雖も、未だ現在に於ける日本政權の分野を徹底的に究明してはゐないやうに思ふ。我等は、すでにプロレタリアの政治運動の必要を認めた。我等のなすべきは、この意識を、今や「行動」に表すべきにある。正に、この時、我等は、我等同志の間に於て、ブルジヨア政治形態の眞相を洞察し、よくこれに對抗し得るプロレタリアの政治運動を考察し得る人々があるかを疑ひ、更に、かゝる人々の間に於て一致したる見解があるかを疑ふ。我等の今、要求しつゝあるは、我等共産主義者の思想を統一し得る、確固たる指導的精神である。

それから、我等が共産主義的行動を開始せんさするときに、「ボルシエビズムの日本化」さいふ命題にあらはれた、ボルに對する無理解を容捨してはならぬ。當面の社會現象に對する共産主義的解釋、それに對する實行運動の意識的採用、これボルの存在の意義である。我等が日本の歴史的社會を對照さして無産階級解放運動をなすこさ、それがすでにボルの教義に忠實なるものである。「ボルの日本化」が、ボルの修正を要求するさいふが如きは、ロシア革命の結果さしてボルシエビズムが生じたさいふ觀念を有するにあらざるかを疑はずにはゐられぬ。「ボルの日本化」さいふ命題が、日本の共産主義者の一部に於て叫ばれてゐるさいふことは、日本の共産主義者が――當面の日本史に對する唯物史觀の貧弱を明かに暴露し、共産主義を、行動の（行動に於てのみ、理論は成立する）舞臺から理論的寄席へ、追込むものさ言はれねばならぬ。かくの如き點にも、又、日本の無産階級運動の當面の危機が存するさ信ずる。（渡邊太郎）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

今に見ろ

最近不景氣の爲め仕事が無くて、俺達の仲間がボロ長屋に食ふや食はずに寢て居るところへ、やれ何とかの救濟團だとか云つて、資本家の道樂息子や、生れるとから自分の化粧以外何一つした事の無い化物みたいな女達が、着物の裾を捲り、鼻をつまみ乍ら、入り込んで來て、押入の中迄覗いた其の揚句、實に悲慘だとか、お氣の毒だとか、私同情するわとか、勝手なセリフを殘して歸りやがる。其後で少しばかりの南京米やパンを仰々しく車に積んで來て、子供等の食ふにも足りない位置いて行くのだ。それ迄は良かつたが、其翌日仕事が無くて休んで居るのを見て、彼奴等は一樣に、勞働者の困るのは心からだ、物を惠んでやつたつて何にもならぬとコキやがつた。

畜生！　一體勞働者が雨の三日も降れば家族一同スグ食へなくなるのは誰の爲めだ。米一粒作らない奴が、贅澤の仕放題が出來て、口さえあれば暗がりから暗がりまで働く俺達が、食ふ物さえ無いのは何が故だ。お前等が何とそれをゴマかそうが、俺達にはその譯がもスッカリわかつたぞ。（糸川二一郎）

農村にて

『みよ！あらゆるプロ社會につながる資本家の重き鐵鎖を、汝等は此の鐵鎖を斷ち切りて汝の自由を得んとは欲せずや…汝等には其の鐵鎖を打ち切る可き力は與へられてあるぞ！』これ僕が宣傳するに一貫した用語です。僕は此の言葉を以て村の有力者を說き村の青年幹事連に宣傳します。尤も僕も幹事の一員ですが。

然し何て情ない事だらう。僕は力の足りない事、それから資本制度を全體的に崇拜する馬鹿共は、僕の言を一笑に附すものさへあります。だが現在僕に味方して吳る人々が半數に近いほどあります。僕のかうした小い努力が、やがて革命行程の一尾の力となる事があるのを思ふて快心の笑を禁ずる事が出來ません。（靜岡　山本誠一）

營舍の地底

喧ましい營舍の中ですが、無產者は如何しても、ブル新聞や侵略計畫に躍まされたくありません。營舍の中に巣食ふてゐる、ブルの乾分である××は、鋭い眼の玉をぎよろぎよろしてゐます。その眼の中には、淚も血もないのです。唯血を搾る事より外に何も知らないのです。然し、其の酷な軍閥が、お得意の××××でオドシツケてゐるが、地の底の底からは、幾百の無產の勇士が一日一日手を握りつゝありますよ。そして、いざ鬪ふ日には幾百年間の恨を報ゆべく、心の底にて力強く用意してゐます。（平壤Ｓ・Ａ生）

惡戰の北九州

日本に於て最も惡戰苦鬪して居るのは九州であらうと思ふ。就中北九州に至つては、最も甚しい。官權の壓迫は何處も同じ事だが、國粹會の橫暴は他に見ざる激烈さを示してゐる。

我々同志が去月有樂館を貸り、既に鬪士も參集して開館數時の間際に至り、當局及び國粹會の威喝に依り殘念ながら中止の止むなきに至つた事があつたが、此のやうな例は絕えまない。尙又演說會場に、國粹會員は胸にたすきをかけ、木劍を提げ五十人、八十人と一團を成して乘りこんで來るのに對して、當局は何等の處置も取らない。而も一般勞働者に對しては、空席があつても入場を禁止し、若し要求する者あらば、ウムを云はさず檢束する。又其設所の內部に於ける壓迫振は、殆んど狂人的である。八幡製鐵所の御用組合たる同志會の常務理事の不正行爲ある勞働者は早速臨時執行委員を十數名擧げ、前理事等も事務引繼を快諾したが、工場のスパイたる中川理事長等は執行委員等には一言の通知もせず自黨を狩り集め、同志會本部に於て會議を開き委員十數名に對して除名を決議した。其の夜御用派は國粹會及び警察の應援に依り、委員側にして一言にても發言せば檢束せんと畫策した。故に數十名は淚を吞み甘じて敵の蹂躙に退場した。その上歸途は約百二十名の巡査が尾行した。

その後、覺醒せる戶畑支部は、勞働者側の臨時執行委員を認めて脫退した。その脫退主旨を一般會員に明かにするためビラを撒布した時、警官は交通妨害の名に依り檢束すると威喝した。斯の如く何に一つやるにしても暴力團たる國粹會及び官憲に依つて、極端なる壓迫が加へられて居る。尙炭坑地方に於ては數名の鬪士に依つて運動を繼續して居るが、三人位より以上の集合は絕對に出來ず、甚だしきは一般新聞の購讀さえ禁止せうとして居る。納屋の外には運動者を入らしめないやうに柵を巡らして居て、如何に兄弟父母と雖も自由の出入は絕對に嚴禁されてゐる。鳥ですら自己の欲する所に飛び行くのに、坑夫等はそれだけの自由もない。そこへ侵入して宣傳を試みる同志は全く命懸けである。萬一間違へば袋たゝきは覺悟の上だ。ビラをまくにしても夜中ソッと柵を乘り越え、各納屋の戶のすき間より押し込むだけである。何しろ北九州程困難な土地は他に無い。淺原君や加藤君を始め同志は實に言語にたゆる苦鬪を續けて居る。それに續くに經濟上の困難は又一入である。併しながら我々は此の困難を突破しなければならぬ。產業の中心地たる北九州二十萬の炭坑夫及び五萬の工場勞働者の結束は、日本革命の主要力であらうから。（森下敬雄）

立ち上つた

私はブルジョアの社會を呪い反抗しながらも、ブルジョアの手より恩惠的に一片のパンを求めての生存を餘儀なくされて居た青年です。――精神も肉體も、生きるための代償として搾取され、たゞ氣息奄々たる生ける屍を意識したとき、私は憤然として立ち上つた。私の前面には二つの道が開かれてゐた。それはパンの爲に死するか、生きるための戰かである。私は全部を捨てゝ立つた。生きるための戰を望んで立つた。パンの道は絕たれた。けれどもあの屈辱矛盾のドン底に泣いて居る人の魂を――私に冷笑をあびせた友人の無自覺を思ふとき、全身の血潮はために躍動を禁ずる事は出來ない（赤瀬湖郎）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

検校旅日記（一）

――勞農露西亞の放浪の記憶から――

チョク・コロツキー

検校は大概盲目だ。めあきの検校もゐるにはゐるが、めくらの方が多い。俺は検校であるが故にめくらで、めくらであるが故に旅日記もあまりあてにはならない。

櫻の花が咲く頃、隅田川に與太どもが狂亂する頃、お濠端の小枝をへし折つて、目明き千人の中をめくらめつぽうに杖にまかして飛び出した。初夏とは云へ朔北の野には未だ處々に雪が殘つてゐた。膚をさすやうな風は遠慮會釋もなく砂を吹き飛ばす。朝ウエルフネウヂンスクを出た汽車は夕日の地平線に輝く高原の眞只中に建てられた國境の小驛タ・ウロウに着いた。

タ・ウロウはソヴイエットロシアと極東共和國との國境にある小驛で、貨車や舊い客車を利用した稅關や警察や國境監視隊やのある所である。一望四里半眼を遮る山もない地平線に圍まれた荒原の中に、プロレタリアの血汐は赤い夕陽に輝いてゐる左上が青色の極東共和國の國旗に代つて眞紅の旗が翻つてゐる。ロシア社會主義聯盟ソヴイエット共和國の文字が感激の眼に決する。

PCFCP（ロシア社會主義聯盟ソヴイエット共和國の各頭文字）を、ルスキー、サハル、フント、ストー、ルブレー（ロシアの砂糖は一斤が百留）と讀みたい奴には勝手に讀まして置けばよい。革命に對するプチイブルヂョアの悲哀が面白おかしく感じられる。砂糖が一斤百留であらうがあるまいが、共産革命遂行の途上にあるプロレタリアに何の影響がある。俺達プロレタリアの胸には勝利の感激が燃へてゐる。北國の重くるしい陰鬱な雪雲に壓へられた空が日本晴に一度に晴れ上つた時のやうにロシアの農民と勞働者は踊つてゐる。ツアーの暴政は紛碎せられ、ブルヂョアの鐵鎖は斷ち切られ彼等には希望の光が未來に輝いてゐる。

革命によつて直に幸福が得られるものと思ふた人達にはロシア革命は幻滅の悲哀を與へるであらう！　革命は直に生活への幸福を與へるものではない。物質生活は以前よりは窮乏に苦しまなければならぬことが多い。然し階級鬪争の勝利は未來への希望が輝く。ドン底に蠢めく暗黒の世界ではなくて黎明曉を告ぐるの悦がある。

極東共和國内に於ては一般に勞働者――筋肉勞働者の賃銀は一ケ月約三十乃至四十金留である。白パン一斤二十五哥、黒パン同じく二十哥、牛乳は四合瓶に一本二十哥、肉が一斤四十五哥で玉子が十個九十哥だ、レストランでやる晝食はスープの外一皿付いて八十哥から一留二十哥で店と所によつて相違がある（物價は銀相場で大洋の三分の一金貨の三分の一である。故に金貨一留で銀三留を得られる）

一日パン一斤、牛乳一本、肉一斤として大約八十五哥一ケ月約二十五留、それに晝食一留として一ケ月三十留、合計五十五留。その外薪炭、調味品、紅茶等を合計して少なくも二十留は必要だ。まだ家賃――高いものではないけれども――がいる。

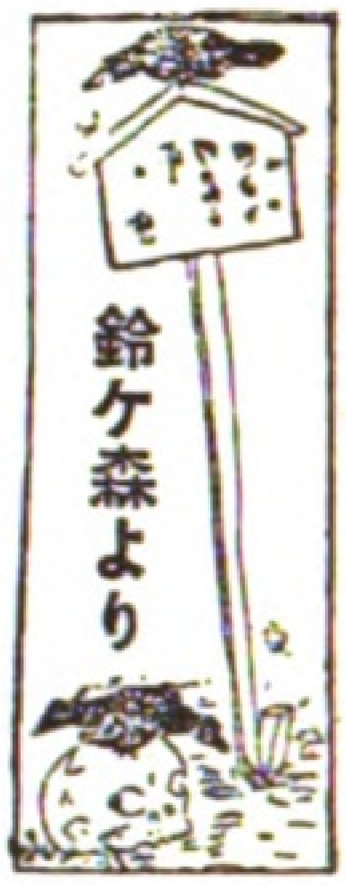
之等を合計すると生活費として一ケ月銀の七八十留は是非なければならぬ。女房と子供は此の計算の中に這入つて居らぬ。之を見ても勞働者の生活が決して幸福なものではあり得ない。だから彼等は歌ふ。

自分等は樽の上に腰をかけ、一椀のカーシャ（おかい）しかない。レーニン、トロツキーは俺達に『ロシアは俺達のものだと云つた』彼等は貧乏人であると同時に世界第一の財産家である！

初夏とは云へ朔北の荒原には膚をさすやうな風が霰まじりに吹いて來る。旅券の證査と稅關檢査に數時間停車してゐる。汽車が此の停車場に着くと同時に旅券の検査に役人――軍人が來る。つゞいて稅關吏が來る。切符の検査に鐵道の役員が來る。かれこれ三十分は此の爲めに費される。

今日は電車が交通調査をやつてゐる。乘客の一人々々の昇降場を調べるので、電車の運轉系統を進化せしむる上に有効な企てのやうだ。恐らく市電當事者の相當の苦心と努力に出づるであらう。私は之を見て、共産社會は進歩が無いと言ふ謬想の一反證を得たと考へた。（五月二十七日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



大阪から

大阪の者が東京の者よりも堅實に進んでゐる。東京の者がウルサク饒舌つてゐる間に、大阪の者はその要點を取り入れてサツサと實際行動の上に現はして行く。解らないでシヤベツてゐる奴と、解つて居て默つてゐる者とは大變な違ひだ。大阪には、口先きばかり強くてツラ構えだけ左翼でゐる卑怯な早漏性社會主義者は居ない。大阪の勞働者は批判力は確かだ。それから、批判はスグ信念となり、信念はスグ行動の上に現はれる。

早稻田の騷動は大阪の新聞にも報導せられた。被害傷者の中に、平素交り深き森崎、稻村、淺沼の諸君の名のあるを見て感慨を久しうした。僕同志の情に乏しいとも思はぬが力なし。諸君と肉體を異にして生れたるを悲しむ。

メーデーには、孫君もやられたさか、傷は輕しと聞けば安心なるも、こんな話を聞くたびに、全く腸を絞らるゝ思ひがする。此の苦しみに依つて、或は諸君の苦しみの幾分を分たれ得やうか。

權力階級は、軍隊とか警察とか言ふ、チヤンと組織せられた物理力を持つてゐる。我々はそれでもう澤山だのに、その上物理力の直接發動をやられては少々藥が利きすぎる。之ではイクラ我々が人が善くても、そろ／＼考へ直さなくてはならないだらう。(竹井)

『或る浪人』に答ふ

君の手紙を讀んで、自ら恥しき思ひを禁ずることが出來なかつた。其れは壓迫と不自由が度を高むるのに、反抗と奮鬪の方は却つて弱つたからである。

我等朝鮮無產者は個人的に搾取され壓迫され、國際的に搾取され虐げられて十有餘年と云ふ長い間苦痛な生活を續けて來た。

我等は、もう一分間も此の羈絆に膠着して居られなくなつた。覺醒した我等は非人間的虐殺的壓迫と桎梏の柵を破壞し人間らしく、自由に幸福に生きるべき社會を建てんとするのは言ふまでもない。斯樣な社會を建設するには、少なからずの努力が必要である。何もしないで只だ來るのを待つのは、梨の木の下に仰向いて梨の落ちるを待つ樣な痴漢と變る所がない。

努力―は戰ひである。戰へば死を覺悟しての戰ひでなければならない斯樣な心持で彼等ブルジョアの牙城に向つて突進せば、必ず勝利の旗は我等の頭上に輝くと思ふ。(孫)

大事件

或は少事件かも知れないが、福田と北原とが喧嘩して、例の分裂をやつたとの流言が傳はつてる。北原はそれに對して『ナーニまだやらない』なんて答えてるそうだが、側から見た所永久にやりそうにない。二人とも、我儘な短氣者に似合はず案外●●●●しんみりした感情を持つてるし、腹の中ではよく理解しあつてる樣に見える。それに何しろ二人ともそろそろ大人だから、無暗にガキの眞似も出來まい。此の問題は、當分諸君の御配慮を要しない。(行司)

營業係獨語

□單に量の上から云つても、菊二倍本文四十頁で、定價がたつた十錢と云ふ、日本一の廉い雜誌故。賣れるワ賣れるワ、面白い位に飛んで行く、加之に地方からの注文が、日に平均二百部からあるので三人の發送係りがつききりだ。初號は一萬五千刷つたが。二號には二萬になり、三號は二萬五千、四號と本號は三萬五千づゝ刷つた。恰度、一號毎に五千部づゝ殖えて行く。この分で行くと今年中に七萬の讀者ができる勘定になる。かうなると一部が四錢足らずで出來上るから一ケ月に雜誌ばかりでも、チヨつと四千圓程儲かる譯だ。これを色々の運動資金に當てたらさぞ面白いが。(安達)

ダイナマイト

□福田が『君は坑夫だからダイナマイトの使ひ方を皆ンなに敎へたらどうだ』と言ふ『ウンそりや面白い、何んと云つても、この道にかけては恐らく俺が一番だぢや一つやつて見ようか』と、早速安請合はしたもの、

□扨て考へて見ると、ダイナマイトを並べてある店は日本中に一軒だつてありはしない。併し鑛山などから盜み出したにしても、あんな大きな音響のするものではチヨつと稽古の場所が見當らない。依つてこの問題は暫く保留する。(高野)

暴力修練の開始

●●愈々今月から、福田狂二が寶藏院流の●●●●槍術を指南し、●●●元高田藩指南番、新納八十翁が一刀流を敎授し、森山武雄が戶山●●學校流の銃劍術を擔任し、稻村隆三が近●●●●影流を受持ち、其の他●●柔道は藤原六三、●●●●射擊は山口武一、馬術、弓術、居下術操●●●●砲術も追々やることになる。拳鬪術は近藤榮藏君に依賴することになつて居る。

赤雲天を覆ふ時、此精千の鬪士が如何に活躍するか、今之れを想像して覺えず床上の秋水を拔いて柱を斬る。(郷田)

丸橋と由井

寶藏院流の槍の達人であつたと云ふ丸橋忠彌の斬られた鈴ケ森に、その昔銃槍をさつては聯隊一の名を博した福田狂二が居ると言ふ事は、古今話の面白い條であるが、處へ正雪に流を汲む駿州由井出身の久保田流が來たのだから今古話の條は益々面白くなつて來た。正雪ならぬ久保田は、幣帛一振で沛然たる豪雨を呼ぶ。といふ樣な藝當はやらないが、人の性格を識別する事には頗る妙を得て居る。彼の話によれば『人間の體質は性格と密接の關係を持つもので、體質によつてその性格は略々鑑別されるものである』さうである。が之は彼の多年の經驗に據る處で、常人の容易に窺ひ知る事では無いが、對面でもうチヤンと分つて了ふと言ふのだから流石に正雪を忍ばせる凄さがある。

總ての打合せが濟むと、駿府(靜岡)に歸へつて旗を擧げると言ふのだから古今話の條は益々面白くなつて來る。(凉)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ス・メ・リーフレット(2)

無産階級の政治運動

北原龍雄

一

『政治運動に移れ！』と言ふ呼び聲が、都會にも農村にも、日本の無産階級の間に擴がつて來た。

一方には、それに反對する人もある。又、反對も贊成もまだ出來ない。先づ充分研究して見やうと言つてる人もある。同時に、研究會が開かれたり、色々の機會に話題に上つたりして、政治運動に對する研究評議は、だん／＼進められてゐる。

而も研究の結果は、大體、政治運動を肯定する事となるやうである。そうして、始めは、政治運動の是非を研究した研究會が、後には政治運動の方法とか順序とかを研究する爲めの研究會になつて行く。

兎に角、『政治運動に移れ！』との呼び聲は、我が無産階級の大衆の中に、段々高くなつて來る。

二

政治運動と言ふ言葉に、常に伴ふ一つの誤解がある。それは政治運動とは、議會に代議士を送つて、何かシヤベツて貰ふだけの運動だとの誤解である。尠くとも議會が、政治運動の中心だ幹道だとの誤解である。

このやうな考へ方をして、俺は政治運動は嫌ひだと言ふ人も少なくない。

所が、之は大變な誤解である。政治運動とは、決してそんなに狹い意味のものではなく、又議會に依つてやらなければならぬと言ふやうに、型が定まつたものではない。要するに、政治運動とは、國家の權力を相手とするすべての運動であるから、その方法や形式は、無産階級大衆の諸々の要求を表現し、貫徹して行くのに、一番適當なものを選ばなければならぬ。議會がいゝか惡いか、又どれだけの價値があるかと言ふやうな問題も、つまり此の點から考へて決定すればいゝのである。

三

政治運動とは、國家權力に向つて戰ふ運動である。

經濟運動は、經濟生活上の相手、即ち賃銀勞働者には資本家、小作人には地主を前に廻しての運動である。

地主や、資本家は、たゞ自分だけの力で存在して居るのではない。彼等の、地主と言ふ立場、資本家と言ふ立場は、國家權力に依つて後ろから固めて貰つてゐるのである。此の點に就て、河上博士は、國家の權力と資本家との關係を知りたければ、激烈なストライキの起つた工場へ行つて見るがいゝ。必ず警察か軍隊が工場を保護して居るんだから——と言ふ意味の事を言はれたが、全くその通りである。

地主が土地を所有する事、資本家が工場とか鑛山とか銀行とかを所有する事が、何故正當の權利であるか、それは國家の法律がそう定めてあるからである。

若し勞働者が工場へ押しかけて、之は明日から俺が占領するんだと宣言したとする。その株主や重役が雇人を皆んな引き連れて來たつて叶はないに極つて居る。それだのに、工場は何時までも資本家のもので、避暑と避寒と晝寢と倶樂部通ひを仕事にして居る株主の懷へ、利益はチヤンと入るのは何故か、國家の法律がそう定めてあつて、若し勞働者の方でそれを無視する者がある時は、巡査のサーベルでも兵隊の機關銃でも向けて來る。かくして資本家の立場は國家の權力に依つて守られてゐるからである。——話の序だが、或る陸軍將校が、五挺の機關銃さえあれば、十萬人位の靑服勞働者の事だ！）は十分間位で蹴散らせると言つたのを私は聞いた事がある。

四

非常に冷酷な慘忍な、一人の資本家と、働いても働いてもロクに食へぬ十萬人の勞働者とが

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衝突した時、勞働者の行爲が假令當然であつても若し法律に違犯して居たら、國家の權力から見て無論十萬人の方が惡い。搾りに搾つて、肥えちぎれそうになつた此の一人を護る爲めに、十萬人の働き疲れた勞働者の大群へ機關銃でも大砲でも差し向けられるのだ。近世文明國の歴史に、銃火に斃れる勞働者の血で染められて居らぬはない。

法律に反く者は縛る、若し抵抗すれば撲る、手におえなければ斬る、なほ强ければ機關銃を持ち出す。それが當然で、合法で、神聖なのだ。

尤も、法律は資本家ばかりを保護する譯ではない。例へば銀座の大通りで、五分間に二十人も轢き殺すやうな速力で、大倉喜八郎の息子が自働車を飛したとすれば、五圓位の罰金は取る。

五

國家の權力は法律に依つて動く。それは汽車と鐵道とのやうな關係である。法律にさえ觸れなければ、權力に依つてブッ潰される事はない。レールの上を通らなければ汽車に轢かれないのと同じ事である。

その證據には、十割の配當をやつて、大暴利をむさぼつてゐる資本家が拘留にさえならないではないか。

十割の配當と言ふ事を、少し細かく考へて見ると、先づ何千人か何萬人かの勞働者が賃銀勞働に依つて搾られてゐる。次に何萬人か何十萬人かの消費者が吊り上げられた物價に依つて搾られてゐる。賃銀勞働者は搾られて働かなければ活きて行けないし、消費者は搾られて買はなければ生活資料が手に入らない無産階級は搾り取られ、肉を削つて資本家の富を增す事が、活きて行く上の、絶對の條件である。かの十割配當と言ふ事は、無産階級の此の弱身に付け込んで、縦横自在の腕を振ふた結果なのだ。赤ん坊の手をねぢるに等しい立場を利用して、血と肉とを絞り取つたものだ。十割配當!それに依つて幾十人かの株主と幾人かの重役とが、別莊道樂や、藝者買や、バクチや、骨董集めに飽く爲めに、如何に多くの人類同胞が苦しんで居る事であらう。

而もそれは、少しの違法でも犯罪でもない。極めて當然な、極めて神聖な事なのだ。何となれば、それを國家の權力が肯定してゐるからだ。

所が彼等に搾らるゝ爲めに、苦しみ疲れつゝある幾十萬人の中の一人が、此の資本家の前に立つて、俺はお前さんの會社に十年働いてるんだが、八十のお母が病氣で難儀してゐる、一圓でいゝから下さいと言つて、無理に資本家のポッケットに手を突つ込んだとせよ、彼は强盜の現行犯で先づ懲役五年は缺げまい。何故か、それは權力が許さないからである。

又話の序だが、七割八割の配當の名人武藤山治が、今度自家用の政黨を作り初めた。これで『資本家階級の政治運動』は又一段徹底するであらう。

六

無産階級と國家權力とは、何んにも關係ないものだらうか。

一切無關係ならば別だが、そうでなければ、無産階級の運動は、權力を相手にしなければならない。つまり、無産階級の政治運動を起さなければならないのである。

一つ々々の資本家に對し、或は又一團の資本家に對し、經濟上の直接の利益を要求する所の經濟運動も、無産階級の目の前の生活を一歩々々高める上に、素より必要であるが、それだけで無産階級の立場の根本はどうもならない。

殊に、生産機關を私有する資本家階級と、無一物の階級とが對立し、一方は搾り取つて極樂のやうな生活に飽き、他の一方は搾り取られて地獄の思ひに一生苦しむやうに出來てゐる今の社會を造りかえる所の、無産階級の所謂歴史的使命を果す爲めに、此の權力と一切沒交渉であり得やう筈が無い。

政治運動の形態とか方法とか順序とか言ふ事が、政治運動に取つて重大な問題である。それ等に就ては、それ〲の研究を積んで行かなければならぬが、我々は先づ、無産階級政治運動の意味を、充分考へる事が大切である。

日本の無産階級運動は、もう政治運動に移らなければならぬ時である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

七

すべての社會運動は、改良性のものと、革命性のものとの二つの種類があるが、政治運動も亦、その二つに分れる。即ち、資本主義政治に幾分づゝの變化を與へやうとするものと、資本主義政治を全く打ち破つて、根底から新しき政治を樹てやうとするものとの二つである。

資本主義政治とは、資本主義の經濟制度の上に立つてゐる政治であるから、資本家の利益にピッタリ當て嵌まつたものである。それだから、前に言つたやうに、資本家の立場を擁護する事を、最も重なる役目として居るのである。

改良的の政治運動は、此のやうな資本主義政治に對し、根本の方針や性質は、そのまゝにして置いて、その内容を幾分づゝ變化せしめる運動である。例へば、株式會社が自由に金を儲ける事は素より法律が認めて行くが、配當の最高の制限を定め、同時に勞働者にも利益を配當せしむるやうに定める法律を新しく作らしむる運動の如きは、一つの改良性の政治運動である。此のやうな法律の制定に依つて資本主義生產制度そのものは、勿論動搖しないが、無產階級の全體或は一部分の當面の利益は進められる。

一方の改造の爲めの政治運動は、根本から政治を變更せうとするものである。資本主義を擁護する政治を一切打ち倒して、全然新しき政治を樹て、その力に依つて經濟制度を全然改造し新しき經濟制度とそれに伴ふ新しき社會とを作り上げる運動である。此の運動に依つては、改良性の運動の如く、無產階級の當面の利益を進める事は出來ない。併しながら、此の運動が成効した時は、社會が改造せらるゝのであつて、無產階級は本當に解放せらるゝ。生產機關が一部の人にのみ獨占せられ、人が人を搾取する關係、社會の產業が資本家と云ふ個人の利益に依つて支配せらるゝやうな不合理は、一切見る事の出來ない世の中となるのである。少くとも改造の爲めの政治運動は、かゝる世の中を生み出す事を目標として努力せられ、發展せしめらるべきものである。

八

二つの政治運動を比べて考へて見るに、改良性の政治運動なれば、實は經濟上の運動、即ち資本家に對して勞動條件の改善を要求するやうな運動でも、その代りをやる事が出來る。たゞ改造の爲めの政治運動は、當面の利益などを離れて、深き意義を含んだものであつて、個々の資本家に對する運動などの、到底實現する事の出來ない仕事を仕遂げる力を持つてゐるのである。それで無產階級の政治運動の本來の役目や意義は、實は此の方の運動にある。

無產階級の生活狀態の改善や利益の增進は、資本家側の方でも相當にやつてゆく。それは個々の資本家や工場でもやるし資本主義政治の仕事の中にも含まれてゐる。此の事は、資本家側から見て、勞働階級の反抗心を鈍らす爲めや、勞働者をよく働かしておいて、消費者の方から充分搾らうとする考へなどに基くものであるが、何れにしても、資本家や資本主義政治に依つて、無產階級の生活は一步々々改善せられて行くのである。

此の事情から、二つの無產階級の政治運動の、それ〴〵の特質が考へられる。即ち、改良の爲めの政治運動ならば、相當に資本主義政治と妥協したり提携したり出來る。併し、改造の爲めの政治運動にありては、それは絕對に不可能の事である。

それから、無產階級の政治運動と議會との關係、即ち議會は運動の上に非常に大切なものか殆んど無用のものかと云ふやうな問題も、亦此の點から考へられる。改良の爲めの政治運動ならば、元來、資本主義政治と妥協も出來るし、又妥協が大變必要でも有効でもあるから、議會で重要な働きをする事が出來る。隨つて、議會との關係は、大切なものだと言はなければならぬ。併しながら、一方の改造の爲めの政治運動は、運動の目的が、資本主義と正面衝突をやつて、先方を打ち倒すことであるから、資本主義政治とは頭から調子の合はない筈のものである。隨つて、議會との關係は極めて薄い事となり、假令議會にも鬪士を送るにせよ、それは運動全體の上から見て、ホンの

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

小さい一部分にしか當らない事となるのである。

議會に關する問題は大分面倒であつて、無産階級の政治運動に取つて、理論上からも實際上からも、議會との關係は今後骨の折れる事であらうが、大體に於て右の如く考へていゝと思ふ。そうして、我々の仕事や問題の中心は、二つの政治運動の中で勿論改造の爲めのものゝ方であるから、結局我々の携はる無産階級の政治運動に取つて、議會は大したものでないと言ふ事となる。

そこで、無産階級の政治運動は、主として議會の外でやらなければならぬ事となるが、議會外の政治運動と云ふのは、一體どのやうなものであらう。此の點の研究や考察も亦、今後最も多くの力を注がなければならない重要事であるが、あのメーデーの運動などに依つて大體の暗示を受ける事が出來る。メーデーは個々の工場や資本家を相手とするのではないから、本質は政治運動である。殊に最近のメーデーは、勞農露西亞承認の要求と云ふが如く、內容の上にも明かに、政治的性質を含んで來た。然るに此の運動は、議會とは全く無關係に行はれてゐる。我々は之に依つて、議會外の政治運動の存在を知ると共に、その一端を見る事が出來やう。

九

政治運動に對する反對論の中に、『政治は人が人を支配するものだ。此の支配關係は、人間を奴隸の境遇に置くものだ。故に此の社會に、本統の自由や平等を實現するには、政治と言ふものを一切無くしなければならない。故に社會を改造する爲めには、政治と云ふものを、一切打ち壞すべきものであつて、無産階級が自分で政治運動をやるが如きは間違つてゐる』と言ふのがある。之は主にアナキストの考へ方である。政治は全く人と人との支配關係であるに違ひない。併しながら支配關係には、大體に於て、人から何かを奪ふ爲めの支配と、與へる爲めの支配とがある。例へば、資本家が勞働者を支配するが如きは奪ふ爲めの支配であるが、醫者が病人に向つて、どのやうな手當をせよ、この藥を飲めと言ふが如きは――その形式は確かに一つの命令であり支配であるが――決して奪ふ爲めの支配ではなくて、病人の求めて居る治療の途を與へる爲めの支配である。奪ふ爲めの支配は、支配される程失ふが、與へる爲めの支配は支配される程得る事となる。

そこで、奪ふ爲めの支配を基礎とする政治は、素より否定しなければならぬが、與ふる爲めの支配の上に成り立つ支配は、決して惡いものでない。

無産階級の政治運動は、要するに、奪ふ爲めの支配の政治を打ち壞して、與ふる爲めの支配の政治を樹立する運動である。そのやうな政治は何人がやるかそれを個人的なる英雄とか天才とかに求めると考へては、大變な間違ひに陷る。たゞ、無産大衆自身の中から生み出した諸々の專門的智識や技能の持主が集つて構成する所の機關の力に依つてのみ、始めてそれは完全に實現せらるゝのである。

一〇

政治運動をやつて行くには、無産階級の大衆を政治的に結合しなければならぬ。此の結合が即ち政黨である。そこで、政治運動が始まれば、必ず政黨が生まれる事となる。

此の政黨と言ふものが、又一つの誤解を受けてゐる。政黨と聞くと、何となく今までの、政友會だとか憲政會だとか言ふものを聯想するので、第一あんな蛙の寄り合ひのやうなものを、今更ら作つたつて何になるかと言ふ誤解である。今一つは、政黨とは代議士本位の團體だとの誤解である。

併し、それは餘りに政黨を狹く見過ぎた誤解である。政黨とは、墮落するものと極つたものでも、又、代議士が中心となると極つたものでもない。要するに、政治運動を目的とした結合ならばすべて政黨である。

無産階級の政黨が墮落して、蛙の寄り合のやうなものになるかならないかは、政治運動に對する、無産階級の自覺や智識や覺悟や決心に依つて定まるのであるが、私は、無産階級が社會的大使命を負ふてゐる事から考へ、その政黨は、すべての意味に於て、必ず立派なものとなる事を確信する。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

営業種目

特許コンプレツソル式基礎工事
特許ペデスタル式基礎工事
特許ウヱバー式煙突工事
鐵筋コンクリート電柱工事
鐵筋コンクリート一般工事
ボーリング作業(地質調査工事)
特許重力コンクリート混合機械製造販賣
輕便ハンド、コンクリート混合機製造販賣
最新型鐵筋切斷機製造販賣
最新型鐵筋曲機製造販賣
鐵筋コンクリート用鋼材輸入販賣

東京市麹町區八重洲町一丁目一番地
株式會社 東洋コンプレツソル
電話丸ノ内長八三七、八三八、長八三九番
出張所 大阪、小倉、札幌、大連、京城

大坂

三越呉服店

高麗橋

株式會社　第百銀行

本店　東京市日本橋區萬町

支店
東京市日本橋區通旅籠町
東京市京橋區銀座二丁目
東京市本所區龜澤町一丁目
横濱市本町四丁目

支店
京都市下京區四條通東洞院東入
京都市上京區今出川通大宮東入
大阪市東區備後町二丁目
大阪市西區新町通三丁目
鳥取市元魚町一丁目

■社會主義圖書雜誌大阪賣所

神戸市湊川町二丁目
十六番地ノ百二十三號

上西書店

上西一郎

パンフレットを讀め

社會主義運動は思想運動から始まる。思想に對する理解を抱くと言ふ事は、すべての運動の第一歩である。

パンフレットやリーフレットは簡單な用意の下に、社會主義の智識を一通り吸收する爲めに、最も適當な讀みものである。深き專門的な研究は勿論出來ないが、智識の入口はこれである。

自分が本統に眞劔に働かうと思ふ運動が、如何なる理論上の根據に立つかを知らなくて滿足の出來やう筈がない。それで、眞に熱心な運動家は先づ熱心に智識を求める。智識に對する態度は運動に對する態度のバロメーターだ。

社會主義の宣傳は思想の宣傳から始まらなければならぬ。それにはパンフレット、リーフレットの配布が最も適當である。如何なる塲合にも許さるべき方法として、諸君の運動は、これから始める事が最も容易である。

進め社は種々のパンフレットを取次ぎする。始めての人には選擇してあげてもいゝ。

リーフレットを讀め

山川均氏のパンフレット

資本主義のからくり

四六版七〇頁　一部三十錢

山川均氏が、深刻な理解と、廣大な智識とを、七十頁のパンフレットに壓縮し、平易な妙文を以て書き表はしたものが之である。山川氏の思想運動に於ける熱心と親切とは、此の一冊に盡されてゐると言ふ事が出來る。社會主義の智識のＡＢＣとして、進め社は責任を以つて推賞する。地方の讀者諸君には幾分割引して取次いであげやう。

目次

一、資本主義の生産　二、經濟組織の變遷　三、生産者と生産機關の分離　四、勞働の商品化　五、生産と消費との矛盾　六、資本制度の濫費　七、人間勞費の制度　八、社會的生産と個人的所有との矛盾　九、生産力と財産制度の衝突　十、私有財産主義の動搖　十一、社會生活の危險と不安　十二、生活の改造　十三、自己改造の努力　十四、社會の改造　十五、鬪爭の生活

スベメ・リーフレット

1 小作人の立場

2 無産階級の政治運動

1は前號に2は本號に何れも本誌の四頁分に載せたものを、そのまゝ獨立のリーフレットとした。1は出來ない内に、もう二千餘りの注文が來たのは、安いセイでもあらうが滿更ら下らんものでもないさうだ。執筆者は北原。配布用に使つて貰ひたい爲め、多數の注文に對しては加速度的に割引する。

定價　一部一錢・十部七錢・百部一五十錢・三百部一圓廿錢

進め社でよく賣れるパンフとリーフ

▲金持と貧乏人　堺利彦　.〇二

▲勞働運動の桃太郎　堺利彦　.〇二

▲文學青年に與ふ　平林初之助　.〇二

▲宗教病者に與ふ　藤井眞澄　.〇二

▲社會主義大意　堺利彦　.一〇

▲資本と勞働　堺利彦　.一〇

▲何故社會主義になつたか　西雅雄　.一〇

▲社會主義の進化　山川菊榮　.一〇

▲二人の革命家と二人の勞働者　山川菊榮　.一〇

▲社會主義になつたら　堺利彦　.四〇

▲直接行動論　島中雄三　.四〇

戰線の旗影

（月刊）
赤旗
菊版八十八頁
六月一日第三號
一部四十錢
一年四圓
京市神田小川町
赤旗社
振替東京五四七七

（月刊）
農民運動
四六四倍八頁
五月十五日第九號
一部十錢
一年一圓廿錢
東京戸塚源兵衛
農民運動社
振替東京五八一二二四

（月刊）
朝鮮國文　斥候隊
一部十錢
一年一圓
東京下戸塚
北星會

大正十二年六月一日發行
大正十二年一月三十日第三種郵便物認可　●毎月一回一日發行　●定價　一部十錢　一年一圓　廣告料　一行一圓　一頁三百圓　●發行所　東京府下荏原郡大井町鈴ヶ森二四七八（振替東京一二八七四）日本勞働協會　發行人　藤田狂二　編輯人　北原龍雄　印刷人　高野松太郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN